http://v3.espacenet.com/textdoc?D.NO. 64423C&F 5 134003141... Cited Reference 1

METHOD FOR EVALUATING QUALITY OF REPRODUCED SIGNAL, AND INFORMATION REPRODUCING DEVICE

Patent number: JP2003141823 Publication date: 2003-05-16

NAKAJIMA TAKESHI; MYASHITA SEJUN; FURUMIYA SHIGERU; ISHIBASHI HIROMICHI MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD Inventor:

Applicant:

Classification: - international:

@11#29/10; @11#7/06; @11#20/16; Q11B20/10; Q11B7/06; @11#20/16; (PC1-7); Q11B20/16; Q11B20/10

- european:

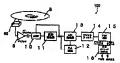
Application number: JF20020196099 20020704

Priority number(a): JP20080196096 20020704; JP20010219372 20010719; JP20010281138 20010888

Report a data error here

Abstract of JP2003141823

Abaltest of JR00314 of 133
PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for evaluating a signal quality on the basis of an index, by which the error rate of the binetized result obtained by maximum inheritoned decoding on index, by which the error rate of the binetized result obtained by maximum particular obtained and the control of the



Data supplied from the exp@cenet detebase - Worldwide

The Print Control of the Control of the Control of the Control of Control of the Control of Control

(18)日本福特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出職公開番号 特|第2003-141823 (P2003-141823A)

(43)公開日 平成15年5月16日(2003.5.16)

(51) Int.Cl. ⁷	識別即号		FI			Ť	~73~~(参考)
G11B 20/18	550		C 1	1 B 20/18		5 5 0 C	5D044
	501					501C	
						501F	
	520					620C	
	534					534A	
		春空游求	未開求	請求項の数15	OL	(全 29 頁)	最終更に続

(21)出顧番号 特願2002-196099(P2002-196099) (71) 出版人 000005821 松下電器產業株式合計 (22) 出版日 平成14年7月4日(2002.7.4) 大阪府門真市大宇門真1006番地 (72)発明者 中鴨 健 (31) 優先権主任番号 特職2001-219372 (P2001-219372) 大阪府門真市大字門真1008番地 松下垂縣 (32) 優先日 平成13年7月19日(2001.7.19) 深攀株式会补内 (33) 優先権主張国 日本 (JP) (72)発明者 宮下 時旬 (31) 個先権主張番号 特職2001-251138 (P2001-251138) 大阪府門真市大字門真1008番地 松下電器 (32) 優先日 平成13年8月22日(2001, 8, 22) 康繼株式会計内 (33) 優先権主機団 B太 (JP) (74) 代理人 100101683 弁理士 奥田 誠可

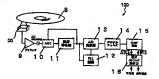
最終更に続く

(54) 【焼明の名称】 再生信号品質評価方法および情報再生装置

(57)【要約】

【談題】 最尤復号を用いて得られた2値化結果の誤り 率を適切に予想することができる指標に基づいて信号品 質を評価する方法を提供する。

【解決手段】 時刻は(はは位置の整数)において複数 の状態をもち、時刻は一」「人は2以上の整数)での整 節から時刻はでの状態に至るまで1 (nは2以上の整数) 題から時刻はでの状態に至るまで1 (nは2以上の整数) 類)通りの状態運移列をとり終る状態運移列を着し、 カ」の状態運移列のうち患も積からしい状態運移列を持 定する最近境等方式において、加当の分状態運移列の時刻とでの状態であまての状態運移列の時刻と一つ状態から 時刻とでの状態に至るまでの状態運移列の時刻と一丁の の対象から時刻とでの状態に至るまでの状態運移の確からしきを とし、2番目に確からしい状態運移列の射はよずの復婚から しきを子Bとし、時刻に Jから時刻はまでの復得的 いはが集空に関係します。 大型の信頼性を1 PA - PB | とすると、所述ので いってのばら いって表します。 アスーターとである。 アメーターを のきを変めることで表式能等の2個化線を規則率と相 関のある億号も数を示す場なが得られる。



!(2) 003-141823 (P2003-141823A)

【特許請求の範囲】

前記時刻k-jから時刻kまでの所定の期間jにおける 前記「温りの状態選挙列を損定する前記第1状態S_{k-j} と前記第2状態S_kとの所定の組み合わせを検出する工 程と、

前記検出された前記所定の組み合わせによって規定され を前記に通りの状態運停列のうちの最も穏からしい第二 が状態運停列前記所定の期間」における状態運停の確からしてある。 からしさを表す指揮をPaとし、2番目に確からしい節 のでは運停列の前形が定の期間」における状態運停の 確からしさを示す指揮をPbとするとき、| Pa-Pb | を用いて前記時刻k-Jから時刻kまでの復号結果の

信頼性を判断する工程とを包含する再生信号品質評価方法。

【韓東項2】 前記P aは、前記所定の期間Jにおける 前記解 L の北配屋移列が示す期待値と実際のウンプル値 との路に基づいて規定され、前記P bは、前記P fu の 間Jにおける前記第2の状配遷移列が示す期待値と前記 実際のウンプル値との途に基づいて規定される轉求項1 に記載の再生得を設置する。

- , m_{k-1}, m_kと前記実際のサンプル値 y_{k-3}, · ·
- ・ y_{k-1}, y_kとの差の2乗の果積値に対応する請求項 2に記載の再生信号品質評価方法。
- 【請求項4】 n=2である請求項1に記載の再生信号 評価方法。

【請求項5】 前記第1の状態運移列と前記第2の状態 運移列とのユークリッド距離は最小値を有する請求項1 に記載の再生信号品質評価方法。

【請求項6】 前犯 | Pa-Pb | を複数回測定することによって、前配復与結果の値類性のパラツキを判断する工程をさらに包含する請求項1に記載の再生信号品質 評価方法。

【請求項7】 新記信頼性のバラツキは、前配 | Pa-Pb | の分布の標準偏差を用いて示される請求項6 に記 戦の再生信号品質評価方法。

【請求項8】 前記信頼性のバラツキは、前記 | Pa-Pb | の標準偏差と前記 | Pa-Pb | の分布の平均値 とを用いて示される請求項6に記載の再生信号品質評価 方法。

【請求項9】 前記| Pa-Pb| が所定の値を超える 頻度を検出することによって前記復号結果の信頼性のバ ラツキを判断する請求項6 に配敵の再生信号品質幹値方 法。

【請求項10】 記録符号の最小極性反転間隔が2であり、かつ、PR(CO,C1,CO)等化された再生信号を復号することを特徴とする請求項1に配数の再生信号評価方法。

【請求項11】 記録符号の最小極性反転間隔が2であり、かつ、PR(CO,C1,C1,C0)等化された 再生信号を復号することを特徴とする請求項1に記載の 再生信号解個方法。

【贈求項12】 記録符号の最小極性反転間隔が2であり、かつ、PR(C0,C1,C2,C1,C0)等化された再生信号を復号することを特徴とする請求項1に記載の再生信号評価方法。

【請求項13】 前記 | Pa-Pb | を計算するとき、 前配実際のサンブル値のの乗の計算を行なわないことを 特定とする前記請求項2または3に記載の再生信号評価 方法。

【請求項14】 再生信号の振幅値を観整するゲインコントローラと、

所定の等化特性となるように前記再生信号を波形整形する波形等化器と

前記再生信号と問期がとられた再生クロックを生成する 再生クロック生成回路と、

前記再生信号を前記再生クロックでサンプリングを行な うことによってサンプリングデータを生成し、前記サン プリングデータを出力するA/D 容物器と

前記サンプリングデータから最も確からしいディジタル 情報を復号する最大検出器と、

前記長尤懐出祭において最も確からしいと判断された第 1の状態連移列の所定の期間における状態選移の確から とさ長寿甘酸をPaとし、2番目に確かとしい第2の 状態運移列の前記所定の期間における状態運移の確から しさを示す情報をPbとするとき、PpaーPblを度 世する整分とリック演集選を使える情報理は整理

【請求項15】 前配波形等化器とは異なる所定の等化 特性となるように波形整形を行なう追加の波形等化器を 更に備え、

前配再生クロックは、前配譲加の波形等化器によって波 形整形された再生信号から生成される請求項14に記載 の情報再生装置。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、記録媒体に記録されたディジタル情報を最尤復号方式によって復号する場合において、復号された信号の品質を評価する方法およ

びこのような評価を行なうことができる情報再生装置に 関する。

[0002]

【従来の技術】近年、AV機器やパーソナルコンピュータなどにおいて、HDD (ハードディスクドライブ)、 光ディスクドライブあるいは光磁気ディスクドライブな どの、配縁媒体に配縁されたディジタル情報を再生する ことができる装置が広く利用されている。

【0003】 関1は、従来の光ディスクドライブ900 の部分的な構成を示す。光ディスク1からの反射光は、 光学ヘッド2により再生信号に変換される。再生信号は 波形等化器うにより液形整形された後、コンパレータ4 において2種化される。コンパレータ4のしきい値は、 週常、コンパレータ4から出力される値化信号の優分 結果が0となるようにフィードバック制御される。

【0004】光ディスクドライブ900では、PLL (phase looked loop) 回路によって再生信号に同期するクロック信号 (再生クロック信号) が生成をれる。再生クロック信号を生成するために、位相比較終うは、コンパレータ4から出力された2位化信号と、VCO(電調整を検出する。検出された位相譲速はレPF(ローパスフィルタ) によって平均化処理され、このLPF6からの出力に基づいてVCO7の制御電圧が設定される。このようにしてVCO7の側側電圧が設定される。このようにしてVCO7の側側電圧が設定される。このようにしてVCO7の側側電圧が設定される。このようにしてVCO7の側側電圧が設定される。

からの四八(金) いくじり (の制) 両電比が設定され あ。このようにしてVCO 7の制機種圧 (VCO 7の発 振周波数) は、位相比較器5から出力される位相談差が 常にOになるようにフィードバック制御され得る。これ により、VCO 7によって再生信号と同期にたクロック 信号を出力させることが可能である。このようなPしし 回路を用いれば、例えばディスクが偏心を有している場 合などにおいても、安定して再生信号に同期したクロッ ク信号を指出することができる。

[0005] 再生クロック信号は、記録符号 (ディジタル情報) が1か0かを判断するために用いられる。より 具体的には、再生クロック信号によって規定される密閣 (ウィンドウ幅) 内にコンパレータ4の検出がルス (す なわち、コンパレータ4から出力される 2 住化信号にお けるしさい値を超える信号部分) が存在するか否かを検 出することによってディジタル情報を再生することがで きる。

【0006】ただし、再生信号の符号間干渉や配録マークの函あらいは回路ノイズやPLL回路の制御見差等に よって、コンパレータ4から出力される検出パレスが再生クロックのウィンドウ幅を外れてしまい、それによって誤りが単生する場合がある。このようなコンパレータ4の検出パレスと再生クロックとの間の時間のずれは「ジッタ」と呼ばれている。

【0007】上述のようにしてディジタル情報を再生する場合、ジッタの分布を求めることで再生信号品質(誤り率)を検出することができる。このジッタの分布は、

平均値が0の正規分布をなすと仮定することができ、この場合に、誤り率PJ(σ/Tw)は、ジッタ分布の標準偏差 σを用いて以下の式(1)および(2)で表される。

【0008】 【数1】

$$P_j(\sigma/Tw) = 2erfc(\frac{Tw/2}{\sigma})$$
 ...(1)

[0009] [数2]

$$\operatorname{crfc}(z) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_{z}^{u} \exp(-\frac{u^{2}}{2}) du \qquad \cdots (2)$$

【0010】ここで、σは正規分布と仮定したジッタの 分布の標準偏差であり、Twはウィンドウ幅である。 【0011】図2に示すグラフから、ジッタの標準偏差 の増加にしたがって鮮り率(ビットエラーレートBF R) が増加することがわかる。再生信号のジッタは、T IA(タイム・インターバル・アナライザ)を用いて宝隆 に測定することができる。このため、現実的に誤りが発 牛しない場合であっても、信号の品質をジッタの標準係 差σ/Twで評価することができ、これにより誤りの発 生しやすさを予想することができる。このようにしてジ ッタの標準偏差を測定すれば、例えばドライブの性能、 記録媒体の性能、光学ヘッドなどの性能を確認および検 査することができる。また、ジッタの標準偏差が低下す るように等化器のパラメータなどを調節することで、よ り安定した再生動作を行なうことが可能である。 [0012]

【発明が解決しようとする課題】一方、上述のようにコ ンパレータ4から出力される2億化信号から直接的にデ ィジタル情報を再生する方法とは異なり、最尤復号方式 によってディジタル情報を再生する方法が知られてい る。この最尤復号方式としては、例えばPRML (Part ial Response Maximum Likelihood) 方式が知られてい る。PRML方式では、記録密度が高い場合において符 号間干渉が起こることを考慮した上でデータの記録およ び再生が行なわれている。より具体的には、記録媒体か ら再生された信号は、波形等化器やデジタルフィルタた どを用いて所定の間波数特性を持つようにパーシャルレ スポンス等化された後、ビタビ復母などを用いて暴光か (最も確からしい) 2億化データに復考される、PRM L方式では、S/N (信号対雑音)の低い再生信号や、 符号間干渉の影響が比較的大きい再生信号からであって も、譲り率の低いデータを復号することが可能である。 【0013】このような最尤復号方式では、再生信号に 基づいて、最も確からしい状態遷移列を選択することに よって復号が行なわれる。一般に、時刻kまでの、状態 Sn(nは状態数)に至る状態運移の確からしさを表す量は 式(3)で定義される。

[0014]

【数3】

$$L^{2n} = \sum_{i=1}^{k} (y_i - lovel_v)^2 \qquad \cdots (3)$$

【0015】ここでy」は時刻1における再生信号(デジタルサンプルデータ)の値、level。は期待される理想的な再生信号の値である。

(0016) 最尤復守回路では、上紀の式(3)で求め られる確からしさを改す量が最小となるような状態運動 別が超球なれる。最大復争方式を用いる場合、上述の時 刻はごとに横出バルスがウィンドウ傷に入っているか否 とに再生クロッケ・シアリングされたデータ、を用い てユークリッド距離(%,-level,)」を求めており、このユ ークリッド距離(添つ)、で復争が行なわれる。このた の、最た復争方式での優等場は、過去のサンプリング された再生信号のサンフル値%にも影響されることにな

【0017】このような最大便号方式を用いる場合、ジッタの護婦構造のが同じ娘の再生信号であっても、終りが発生する場合と発生しない場合とかある。このため、再生信号のジッタの標準構造のを用いて、最大復号によって得られる2値化粧果の鉄り車を予鑑することは医難である。従って、最大復号方式により適した鉄り車の予測方法(信号品質評価方法)を用いる必要がある。

【0018】最大復号方式で再生された信号の品質を評価する方法は、例えば特層平10-21651号公報に 配載されている。この公保に記載の装置では、ユークリッド距離が最小となる2つのパス(状態運移列)の尤皮の遊を求め、この差を統計処理することによって信号品質を評価している。

【0019】より具体的には、時刻限において同一の状態を取る2つのパスの光度の差を求めるために、時刻限-1において翼なる2つの水路(各パスにおける時刻に-1での水路)のそれぞれにおける時刻に-1での水路(多次パス(含きタリバス)の子シチメトリックの黒積をが好いられている。しかしながら、時刻に-1以前のパスとして、実際に光度を開べたいバスとは異なるパスを扱って選択している場合をどにおいて、房室をかった。上担公職には、ユータリッド四種が最小となる2のパスを最小となるとは表なが、大き扱って選択して、ようの光度の差を求めることは配載されているものの、その2つのパスと正いてももの光度の差を求めることは記載されているものの、その2つのパスと高いい大度の計算をより模実に行なうための方法についての実際に求めたい大度の計算をより模実に行なうための方法については極に駆きまりで

【0020】本発明は、上記課題を鑑みてなされたもの であり、その目的とするところは、最尤復写による2値 化結果の譲り率との相関のある指揮を用いた再生信号品 質の軽値方法および評価維管を提供することにある。

[0021]

(4) 003-141823 (P2003-141823A)

号結果の信頼性を判断する工程とを包含する。 【0022】ある好ましい実施形態において、前記Pa は、前部所を効関」における前記第1の状態選移列が 示す期特値と実際のサンフル値との差に差づいて規定さ れ、前記Pbは、前記所定の期間」における前記第2の 状態遷移列が示す期特値と前記実際のサンフル値との差 に基づいて規定される。

態遷移の確からしさを示す指標をPbとするとき、|Pa-Pb|を用いて前記時刻k-|から時刻kまでの復

 ・, y_{k-1}, y_kとの差の2乗の規模値に対応し、前記P bは、前記第2の状態運移列が示す時刻k-jから時刻 kまでの期待値m_{k-3}, ・・・, m_{k-1}, m_kと前記失照 のサンプル値y_{k-3}, ・・・, y_{k-1}, y_kとの差の2乗 の具積値に対応する。

【0024】ある好ましい実施形態において、n=2で

【0025】ある好ましい実施形態において、前記第1 の状態遷移列と前記第2の状態遷移列とのユークリッド 距離は最小値を有する。

【0026】ある好ましい実施形態において、前記 | Pa-Pb | を複数回測定することによって、前記復号結果の信頼性のバラツキを判断する工程をさらに包含する。

【0027】ある好ましい実施形態において、前記信頼性のバラツキは、前記 | Pa - Pb | の分布の標準偏差を用いて示される。

【0028】ある好ましい実施形態において、前記信頼 性のパラツキは、前記 | Pa - Pb | の標準保差と前記 | Pa - Pb | の分布の平均値とを用いてったれる。 【0029】ある好ましい実施が既において、前記 | P

!(5) 003-141823 (P2003-141823A)

a-Pb | が所定の値を超える頻度を検出することによ って前記復号結果の信頼性のバラツキを判断する。

【0030】ある好ましい実施形態において、記録符号 の最小極性反転間隔が2であり、かつ、PR(CO.C 1. CO) 等化された再生信号を復号することを特徴と する.

【0031】ある好ましい実施形態において、記録符号 の最小極性反転間隔が2であり、かつ、PR(CO,C 1. C1. C0) 等化された再生信号を復号することを 特徴とする。

【0032】ある好ましい実施形態において、記録符号 の最小極性反転間隔が2であり、かつ、PR(CO.C 1, C2, C1, C0) 等化された再生信号を復号する ことを特徴とする。

【0033】ある好ましい実施形態において、前記 | P a-Pb | を計算するとき、前配実際のサンプル値の2 乗の計算を行なわないことを特徴とする。

【0034】本発明による情報再生装置は、再生信号の 振幅値を開整するゲインコントローラと、所定の等化特 性となるように前配再生信号を波形整形する波形等化器 と、前記再生信号と同期がとられた再生クロックを生成 する再生クロック生成回路と、前記再生信号を前記再生 クロックでサンプリングを行なうことによってサンプリ ングデータを生成し、前記サンプリングデータを出力す るA/D変換器と、前配サンプリングデータから最も確 からしいディジタル情報を復号する最尤検出器と、前記 最尤検出器において最も確からしいと判断された第1の 状態遷移列の所定の期間における状態遷移の確からしさ を表す指標をPaとし、2番目に確からしい第2の状態 遷移列の前記所定の期間における状態遷移の確からしさ を示す指標をPbとするとき、|Pa-Pb|を質出す Level, = $b_{k-3} + 2b_{k-1} + 2b_{k-1} + b_k$

【0042】ここではは時刻を表す整数 マはり~6ま での整数である。PR(1, 2, 2, 1)等化の場合。

記録符号の組み合わせに応じて、理想的なサンプル値 (期待値)が0~6までの7通りの値(Level,) を取り得る。

【0043】次に、記録符号の状態の遷移について説明 する。時刻kでの状態をS(bk-2, bk-1, bk)とし、時刻k-1 での状態をS(b k-a, b k-1, b k-1)とする。時刻k-1

る差分メトリック

海質器とを備える。

【0035】ある好ましい実施形態において 前記波形 等化器とは異なる所定の等化特性となるように液形格形 を行なう追加の波形等化器を更に備え、前記車生クロッ クは、前記追加の波形等化器によって波形整形された再 生信号から生成される。

[0036]

【発明の実施の形態】以下、本発明による再生信号品質 評価方法および情報再生装置の実施の形態を説明する。

【0037】以下、本発明の実施形態にかかる再生信号 品質の評価方法について説明する。以下に説明する形態 において、記録符号としては、(1,7) RLL 空間方 式などに従って規定された最小条件反転間隔が2の符号 が用いられる。すなわち、記録符号は0または1が必ず 2以上連続する。また、記録系の周波数特性と再生系の 周波数特性とが、全体としてPR(1,2,2,1)等 化特性を示すように設定されているPRML方式を利用 して復号を行う。以下、より具体的な復号手順について 説明する。

【0038】記録符号(0または1のいずれか)を以下 のように表記する。

[0039]

現在の記録符号

1時刻前の記録符号: b... 2時刻前の記録符号: b,_,

3時刻前の記録符号: bx-3

【0040】PR(1,2,2,1)等化されている場 合の再生信号の理想的な値をLevel。とすると、L evel,は以下の式(4)で表される。

[0041]

での状態と時刻kでの状態との組み合わせを考えると、 以下の表1に示すような状態遷移表が得られる。上述の ように、0と1との最小反転間隔が2である変調方式が 採用されているため、記録符号が取り得る状態遷移は以 下の10通りに限定される。

[0044]

[表1]

最小反転間隔 2 と PR(1,2,2,1)の制約から定まる状態遷移表

Detains a series of balls	I the del a see on 40 445	
時刻 k-1 での状態	時刻kでの状態	
$S(b_{k-3},b_{k-2},b_{k-1})$	$S(b_{k-2},b_{k-1},b_k)$	b _k /Level _v
S(0,0,0)	S(0,0,0)	0/0
S(0,0,0)	S(0,0,1)	1/1
S(0,0,1)	S(0,1,1)	1/3
S(0,1,1) S(0,1,1)	S(1,1,0)	0/4
S(0,1,1)	S(1,1,1)	1/5
S(1,0,0)	S(0,0,0)	0/1
S(1,0,0)	S(0,0,1)	1/2
S(1,1,0)	S(1,0,0)	0/3
S(1,1,1)	S(1,1,0)	0/5
S(1,1,1)	S(1,1,1)	1/6

【0045】簡単のために、時刻kでの状態S(0.0.0)。を 50k、状態S(0,0,1)kをS1k、状態S(0,1,1)kをS2k、状態S (1,1,1)kをS3k、状態S(1,1,0)kをS4k、状態S(1,0,0)kを S5、というように表記する。時刻k-1から時刻kまで の期間 (再生クロックの1周期Tに対応する時間) に生 じ得る状態遷移は図3に示す状態遷移図で表され、ま た、これを時間軸に関して展開すると図4に示すトレリ ス図が得られる。

【0046】ここで、時刻kでの状態50と時刻k-5での 状態50k-sとに注目する。図5は、状態50cと状態50c-s との間で取り得る2つの状態遷移列を示している。取り 得る状態遷移列の一方をパスAとすると、パスAは状態 50x-6、50x-4、50x-2、50x-2、50x-1、50xを遷移し、他 方の状態遷移列をパスBとするとパスBは状態SOx-5、S 1_{k-4}、52_{k-3}、54_{k-2}、55_{k-1}、50,を遷移する。なお、図 4および区5では、状態遊移ごとに(記録符号/Lev elv)が示されているが、Levelvは-3~3点 での7つの値を取るものとして示しており、-3~3の それぞれが上記のLevelvの0~6のそれぞれに対 応している。

【0047】このように、時刻k-5での状態が50k-6 であり、かつ、時刻kでの状態が50.であるような場合 には、上述のパスAまたはパスBのいずれかを遷移する ものと推定される。すなわち、時刻k-7から時刻kま での復号データ(Ck-7, Ck-8, Ck-6, Ck-4, Ck-2, Ck-2, Ck-1, Ck)=(0,0,0,x,x,0,0,0)となる復号結果(xは0ま

たは1の値)が得られた場合には、パスAまたはパスB の状態遷移が最も確からしいと推定されたこととなる。 【0048】このようにして時刻kでの状態SO。と時刻k ~5での状態SO_{k-8}とが検出された場合(すなわち、(0,0, 0.x.x.0.0.0)となる復号結果が得られた場合) パスA とパスBとのいずれがより確からしいかが判断される。 この判断は、パスAが示す理想的なサンプル値(期待 値)と実際のサンプル値とのずれの大きさと、パスBが 示す理想的なサンプル値(期待値)と実際のサンプル値 とのずれの大きさとを比較することによって行なうこと ができる。より具体的には、パスAとパスBのそれぞれ が示す時刻k-4から時刻kまでの期待値(Level 。)のそれぞれと、再生信号y, 。からy, までの実際の値 のそれぞれとの差の2乗の累積結果に基づいて、パスA またはパスBのいずれの状態遷移列がより確からしいか を判断することができる。

(6) 003-141823 (P2003-141823A)

【0049】ここで、パスAが示す時刻k-4から時刻 kまでの期待値1k-4, 1k-3, 1k-2, 1k-1, 1k(す なわち、0,0,0,0,0)のそれぞれと再生信号v k-4からykまでの値との差の2乗の累積値をPaとし、 パスBの時刻k-4から時刻kまでの期待値mk-4, m k-3, mk-2, mk-1, mk (すなわち、1, 3, 4, 3, 1)と再生信号yx-4からyxまでの値との差の2乗の集 積値をPbとすると、累積値Paは以下の式(5)で表 され、累積値Pbは以下の式(6)で表される。 [0050]

$Pa=(y_{k-4}-0)^2+(y_{k-3}-0)^2+(y_{k-2}-0)^2+(y_{k-1}-0)^2+(y_{k-1}-0)^2$ [0051]

Pb= $(y_{k-4}-1)^2+(y_{k-3}-3)^2+(y_{k-2}-4)^2+(y_{k-1}-3)^2+(y_{k-1})^2$...(6) 【0052】このようにして求められる果積値Paは、時 刻k~5から時刻kまでの所定の期間におけるパスAの 遷移の確からしさを示す指標であり、Paの値が小さいほ どパスAが確からしいことになる。また、県積値Pb は、時刻k-5から時刻kまでの所定の期間における、 パスBの遷移の確からしさを示す指標であり、Pbの値 が小さいほどパスBが確からしいことになる。Paまた

はPbの値がOである場合にはバスAまたはバスBの確 からしさが最大となる。

【0053】次に、PaとPbとの差Pa-Pbの意味 について説明する。最大復号回路はPa<<Pbであれ ば、パスAを自信を持って選択し、Pa>>Pbであれ ばパスBを自信を持って選択することになる。ただし、 Pa=PbであればパスA、パスBのいずれを選択して

!(7) 003-141823 (P2003-141823A)

もおかしくなく、復号結果が正しいかどうかは5分5分 であるといえる、従って、PaーPもの値は、復号結果 の信頼性を判断するために用いられ得る。すなわち、P aーPもの絶対値が大きいほど復号結果の信頼性は高 く、PaーPもの絶対値が0に近いほど復号結果の信頼 性は低いことになる。

【0055] この分布を正現分布であると仮定して、分布の標準構建のと平均値 Paveを求める。この分布の標準構建のと平均値 Paveを求める。この分布の標準構建をと平均値 Paveとは、ビット組列を予明・布を示すらのとして推定される分布曲線がかだらかであり、この分布曲線が、「Pa-Pb | の値がの以下を取り得るような関数によって規定されるとき(すなわち、Pa-Pb | が0を取る機能が0ではかいとき)に、| Pa-Pb | の値が0以下となる確率に応じた頻度で侵与の低がが発生することなるした場合。機等傾差のとア均値 Paveとを用いて、観り確率 P(σ) Pave) は以下の気(パによって規定することができる。

*(G, Pave)=erfc(Pstd+Pave / σ) …(7) 【0057】このように、Pa — Pbの分布から求めた 平均値Pa v eと極端構造のとを用いれば、最北復号方式による2値化結果の額り率を予想することができる。

つまり平均値Paveと標準偏差σとを再生信号品質の 指標として用いることが可能である。なお、上記の例で は | Pa - Pb | の分布が正規分布であることを仮定し ているが、IPa-Pblの分布が正規分布であると見 なすことが困難である場合には、上述のような平均値P aveと標準偏差σとを求める代わりに、IPa-Pb | の値が所定の基準値以下になる回数をカウントするよ うにしてもよい。こうして得られたカウント数は | P a-Pb | のパラツキの程度を示す指標となり得る。 【0058】以上に説明したように、本実施形態によれ ば、所定の期間において所定の第1の状態(例えばS 0)から所定の第2の状態(例えば50)へと状態遷移 が生じる場合に、取り得る2つのパスについての上記所 定の期間における確からしさの差の絶対値 | Pa-Pb | を計算することによって復号の信頼性を判断すること ができる。さらに、IPa-Pb|を複数回測定して復 号の信頼性 | Pa-Pb | のバラツキ程度 (分布) を得 ることによって、再生信号の品質の評価 (ビット掘り率 の予測)を行なうことができる。

【0059】なお、このような方法によって信号品質の評価を行なう場合、最も級りが生じやすいこつのバス(すなわち、2つのバス間のユータリット距離が最小となるもの)を取り得る状態運動の組み合かせを選択し、このような2つのバスの確からしさの差の地対値「PaPb|を用いて信号品質を評価すればよい。以下、この点について詳細に説明する。

【0060】上述のように最小極性反転間隔が2であるとともに、PR(1,2,2,1)等化を用いた状態運動製造機能の表情の表情等をもある。2つのカスを取り得る状態運動は、時刻以一5から時刻以の範囲では、上述の8人の一をから50人の運動の他に15連りある。下の成実に、中の状態基準の動脈を一方でが取りまりました。それぞれの状態との組み合わせ)と、それぞれの状態を形にアローPbが取り得る値(Pstd)とを示す。

【表2】

(8) 003-141823 (P2003-141823A)

2つの遷移列をとりうる最短の状態遷移の組み合わせ

	復号結果の信頼性 Pa-Pb		
状態遷移	Pa=0 のとき	Pb=0 のとき	
$S0_{k-5} \rightarrow S0_k$	-86	+86	
S0k-5 → S1k	∵ -36	F36	
S0k-4 → S4k	-10	+10	
SOk 4 → SSk	-10	+10	
S2k-4 → S0k	-10	+10	
S2k-4 → S1k	·10	+10	
S2k-5 → S4k	-86	+36	
$S2_{k-5} \rightarrow S3_k$	-36	+36	
Sők-5 → SOk	-36	+36	
S5k-5 → S1k	-36	+86 '	
Sők-4 → S4k	·10	+10	
S5x-4 → S3x	·10	+10	
53k 4 → 50k	-10	+10 55	
S3k-4 → S1k	•10	+10	
S3k-s → S4k	-36	+86 (4)/4	
S3k-6 → S3k	-86	+36	

【0062】上記の16通りの復号結果の信頼性Pa- 【0063】 Pbは下記の式(8)で表すことができる。

> $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-8}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_{k}) = (0.0, 0, x, x, 0, 0, 0)$ のとき $Pa-Pb = (A_{k-4}-B_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-3})+(A_{k-2}-E_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(A_{k}-B_{k})$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-8}, c_{k-4}, c_{k-9}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0.0.0, x, x, 0.0.1)$ のとき $Pa-Pb = (A_{k-4}-B_{k-4}) + (A_{k-3}-D_{k-3}) + (A_{k-2}-E_{k-2}) + (A_{k-1}-D_{k-1}) + (B_k-C_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-8}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,0,x,1,1,0)$ $Pa-Pb = (A_{k-3}-B_{k-3}) + (B_{k-2}-D_{k-2}) + (D_{k-1}-F_{k-1}) + (E_k-F_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0.0, 0. \times, 1.1, 1)$ $Pa-Pb = (A_{k-3}-B_{k-3})+(B_{k-2}-D_{k-2})+(D_{k-1}-F_{k-1})+(F_k-G_k)$ $(c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0.1.1, x.0.0.0)$ $Pa-Pb = (E_{k-3}-F_{k-3}) + (D_{k-2}-F_{k-2}) + (B_{k-1}-D_{k-1}) + (A_k-B_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,1,1,x,0,0,1)$ $0 \ge 5$ $Pa-Pb = (E_{k-3}-F_{k-3})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,1,1,x,x,1,1,0) のとき$ $Pa-Pb = (E_{k-4}-F_{k-4})+(D_{k-3}-G_{k-3})+(C_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-1}-G_{k-1})+(E_{k}-F_{k-1})$ $(c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,1,1,x,x,1,1,1)$ $0 \ge 3$ $Pa-Pb = (E_{k-4}-F_{k-4}) + (D_{k-3}-G_{k-3}) + (C_{k-2}-G_{k-2}) + (D_{k-1}-G_{k-1}) + (F_k-G_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,0,0,x,x,0,0,0)$ $Pa-Pb = (B_{k-4}-C_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-3})+(A_{k-2}-B_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(A_k-B_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,0,0,x,x,0,0,1)$ $Pa-Pb = (B_{k-4}-C_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-3})+(A_{k-2}-E_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$ $(c_{k-5}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1.0.0, x, 1, 1, 0)$ $Pa-Pb = (B_{k-3}-C_{k-3})+(B_{k-2}-D_{k-2})+(D_{k-1}-F_{k-1})+(E_k-F_k)$ $(c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_{k}) = (1,0,0,x,1,1,1) のとき$ $Pa-Pb = (B_{k-3}-C_{k-3}) + (B_{k-2}-D_{k-2}) + (D_{k-1}-F_{k-1}) + (F_k-G_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,1,x,0,0,0)$ $Pa-Pb = (F_{k-3}-G_{k-3})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(A_k-B_k)$

((9) 003-141823 (P2003-141823A)

 $(c_{k-8}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,1,x,0,0,1)$ のとき $Pa-Pb = (F_{k-3}-G_{k-3})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,1,x,x,1,1,0)$ $0 \ge 3$ $Pa-Pb = (F_{k-4}-G_{k-4})+(D_{k-2}-G_{k-2})+(C_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-1}-G_{k-1})+(E_k-F_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-8}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,1,x,x,1,1,1)$ $0 \ge 8$ $Pa-Pb = (F_{k-4}-G_{k-4}) + (D_{k-3}-G_{k-3}) + (C_{k-2}-G_{k-2}) + (D_{k-1}-G_{k-1}) + (F_k-G_k)$...(8)

[0064]なお、A_k=(y_k-0)2,B_k=(y_k-1)2,C_k=(y_k-2)2, $D_k = (y_k - 3)^2$, $E_k = (y_k - 4)^2$, $F_k = (y_k - 5)^2$, $G_k = (y_k - 6)^2$ ある.

合と36の場合とに分けて示すと、Pstd=10とな る場合は式(9)で表され、Ptsd=36となる場合は 式(10)で表される。

【0065】また、上記式(8)を、Pstdが10の場

[0066] $(c_{k-8}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-9}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,0,x,1,1,0) n \geq 2$ $Pa-Pb = (A_{k-3}-B_{k-3})+(B_{k-2}-D_{k-2})+(D_{k-1}-F_{k-1})+(E_{k}-F_{k})$ $(c_{k-8}, c_{k-8}, c_{k-4}, c_{k-8}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,0,x,1,1,1)$ のとき $Pa-Pb = (A_{k-3}-B_{k-3}) + (B_{k-2}-D_{k-2}) + (D_{k-1}-F_{k-1}) + (F_k-G_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-8}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0.1.1, x, 0, 0, 0) のとき$ $Pa-Pb = (E_{k-3}-F_{k-3})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(A_k-B_k)$ $(c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_{k}) = (0,1,1,x,0,0,1) のとき$ $Pa-Pb = (E_{k-3}-F_{k-3})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$ (ck-6, ck-6, ck-4, ck-3, ck-2, ck-1, ck) = (1,0,0,x,1,1,0)のとき $Pa-Pb = (B_{k-3}-C_{k-3})+(B_{k-2}-D_{k-2})+(D_{k-1}-F_{k-1})+(E_k-F_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-2}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,0,0,x,1,1,1) のとき$

 $Pa-Pb = (B_{k-3}-C_{k-3})+(B_{k-2}-D_{k-2})+(D_{k-1}-F_{k-1})+(F_k-G_k)$ $(c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_{k}) = (1,1,1,x,0,0,0)$ のとき $Pa-Pb = (F_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(A_k-B_k)$ $(c_{k-8}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-1}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,1,x,0,0,1)$ のとき

 $Pa-Pb = (F_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-2}-F_{k-2})+(B_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$

...(9)

[0067]

 $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-8}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_{k}) = (0,0,0,x,x,0,0,0)$ observed $Pa-Pb = (A_{k-4}-B_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-2})+(A_{k-2}-E_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(A_k-B_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-8}, c_{k-4}, c_{k-9}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,0,x,x,0,0,1)$ obs $Pa-Pb = (A_{k-4}-B_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-3})+(A_{k-2}-E_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$ $(c_{k-2}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-1}, c_k) = (0.1.1, x, x, 1.1.0)$ $Pa-Pb = (E_{k-4}-F_{k-4})+(D_{k-3}-G_{k-3})+(C_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-1}-G_{k-1})+(E_k-F_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,1,1,x,x,1,1,1)$ $0 \ge 3$ $Pa-Pb = (E_{k-4}-F_{k-4})+(D_{k-3}-G_{k-3})+(C_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-1}-G_{k-1})+(F_k-G_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,0,0,x,x,0,0,0) のとき$ $Pa-Pb = (B_{k-4}-C_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-2})+(A_{k-2}-E_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(A_{k-1}B_{k-1})$ $(c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,0,0,x,x,0,0,1)$ $\sigma \geq \delta$ $Pa-Pb = (B_{k-4}-C_{k-4})+(A_{k-3}-D_{k-3})+(A_{k-2}-E_{k-2})+(A_{k-1}-D_{k-1})+(B_k-C_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_{k}) = (1,1,1,x,x,1,1,0) のとき$ $Pa-Pb = (F_{k-4}-G_{k-4})+(D_{k-3}-G_{k-3})+(C_{k-2}-G_{k-2})+(D_{k-1}-G_{k-1})+(E_k-F_k)$ $(c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-2}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,1,x,x,1,1,1)$ $0 \ge 8$ $Pa-Pb = (F_{k-4}-G_{k-4}) + (D_{k-3}-G_{k-3}) + (C_{k-2}-G_{k-2}) + (D_{k-1}-G_{k-1}) + (F_k-G_k)$

【0068】ここで、それぞれの場合について辿り塞の 指標を得ることについて考える。 Pst dが10である ような状態遷移では、最尤復号結果で、から式(9)を満た すPa-Pbを求め、その分布から標準偏差 ousと平均

値Paveiaを求める。他方、Pstdが36である上 うな状態遷移では、最尤復号結果 c. から式(10)を満た すPa-Pbを求め、その分布から標準偏差でなど平均 値Pavesを求める。それぞれの分布が正規分布であ

(10))03-141823 (P2003-141823A)

ると仮定すると、誤りを起こす確率P10, Pasは、それ ぞれ下記の式(11)および(12)で轟される。すなわち、最 尤復号結果のパターンごとに誤り率を推定することがで き、機準偏差σ₁₀および平均値Pave₁₀、または、標 準備差 σ。s および平均値 Pavessを再生信号の品質の 指標として用いることができる。 [0069]

[
$$\mathfrak{A}$$
4]
$$P_{10}(\sigma_{10}, \mathsf{Pave}_{10}) = erfc(\frac{10 + \mathsf{Pave}_{10}}{\sigma_{10}}) \qquad \cdots (11)$$
[0070]
[\mathfrak{A} 5]

$$P_{36}(\sigma_{36}, Pave_{36}) = erfc(\frac{36 + Pave_{36}}{\sigma_{nc}})$$
 ...(12)

【0071】また、状態遷移のパターンを検出する範囲 を1時刻増やし、時刻k-6から時刻kの範囲で2つの 状態遷移列を取り得る状態遷移の組み合わせパターンを 検出する場合には、以下の表3に示される8パターンが さらに検出され得る。 [0072]

【表3】

2つの遷移列をとりうる最短の状態遷移の組み合わせ

	復号結果の信頼性 Pa·Pb		
状態遷移	Pa=0 のとき	Pb=0 のとき	
S0k-6 → S0k	·12	+12	
S0k-6 → S1k	-12	+12	
S2k-6 → S8k	-12	+12	
S2k-6 → S4k	•12	+12	
S5k-6 → S0k	-12	+12	
S5k-6 → S1k	-12	+12	
S3k-6 → S3k	-12	+12	
83k-6 → 84k	-12	+12	

【0073】上記式(11)、(12)と同様に、表3のパター ンにおける誤りを起こす確率P.。は、式(13)で示され る.

[0074]

(数6)

$$P_{12}(\sigma_{12}, Pave_{12}) = erfc(\frac{12 + Pave_{12}}{\sigma_{12}})$$
 ...(13)

【0075】ここで重要なのは、信頼性 | Pa-Pb | を再生信号品質の指標として好違に利用するためには、 誤る可能性(誤り率)が大きい状態遷移のパターンのみ を検出すればよいということである。すなわち、すべて の状態遷移のパターンを検出しなくても、誤り率と相関 のある指標を得ることができる。

【0076】ここで、誤る可能性が大きい状態運移パタ ーンとは、信頼性 | Pa-Pb | の最大値が小さくなる ような状態遷移パターン(すなわち、パスAとパスBと の絶対距離であるユークリッド距離が最小となるパター ン) である。ここでは、表2に示した、PaまたはPb のいずれか一方が0の場合においてPa-Pb=±10 をとる8つのパターンがこれに該当する。

【0077】再生信号に含まれる雑音のうちホワイトノ イズが支配的であるとすると、Pio>Pio>Pio>とな ることが予想される。Pinのみ1ビットシフトエラーを 示し、他のパターンは2ビット以上のシフトエラーを登 味する。PRML処理後のエラーパターンを分析する と、ほとんどが、1 ビットシフトエラーであるため、P 10を用いる式(11)により再生信号の誤り率を適切に推定 できる。このように、所定の期間に所定の状態遷移を取 るパターンを検出し、この検出された状態遷移における |Pa-Pb|-Pstdの分布の標準偏差σ:。平均 値Pavesを指標として用いて、再生信号の品質を評 価することが可能である。

【0078】上述のように誤り率は標準偏差σ,。を用い て予測され得るが、例えば、以下の式(14)で定義される PRML職業指揮MLSA (Maximum Likelihood Seque nceAmplitude)を信号品質(誤り率)を示す指揮として 用いてもよい。 [0079]

【数7】

$$M = \frac{\sigma_{10}}{2 \cdot d_{\min}^2} [\%]$$
 ...(14)

【0080】ここで、は2.1.は、取り得る2つのパスの ユークリッド距離の最小値の2乗であり、本実施形態の 変調符号とPRML方式との組み合わせでは10とな る。なお、上配の指標MLSAは、式(11)における平均

(11)103-141823 (P2003-141823A)

僅Pave1,0が0となるとの仮定のもとに規定されている。これは、平均値Pave1,0は典型的には0に近い値をとるものと考えることができ、平均値Pave1,0を考慮しない場合にも、指揮として誤り率との相関性を持つものが得られるからである。

【0081】式(10で定義した指標MLSAと式(11)よ り算出できる鉄り率BER(BitError Rat ら)との関係を図16に示す。図2で示した、ジッタと 鉄り率の関係と同様に、推断MLSAの増加にしたがっ て鉄り率が増加していることがわかる。すなわち、指揮 MLSAを用いて、PRML処理後の鉄り率を予想する ことができることがわかる。

【0082】なお、以上には、一般的な(C0, C1, C1, C0)等化(C0, C1は任意の正の数)の一例として、PR(1, 2, 2, 1)等化が運用される場合について具体的に説明したが、これ以外の(C0, C1, C1, C0, C0)等化(C0, C1は任意の正の数)が

【0088】ここではは時刻を表す整数、Vは0~3までの整数である。また、時刻はでの状態をS(b_{k-1}-b_k)とすると以下の表4に示すような状態運移表が得られ

波用される場合についても上記と同様の手順によって誤 り率と相関を持つ推議を得ることができる。 10083〕以下、上記の形態とは異なる形態として、 最小確性反転間隔が2である配縁符号が用いられるとと

現外強性反転期隔か2である記録行号が用いられるとも たにPR(CO,C1,CO)等化(例えば、PR (1,2,1)等化)が適用される形態について限明する。なお、CO、C1は任意の正の数である。 (0084)記録行号(0または1のいずれか)を以下のように表記する。

【0085】 現時刻の記録符号 : b_k 1時刻前の記録符号 : b_{k-1}

2時刻前の記録符号: b_{x-2} 【0086】PR(CO, CI, CO) 等化されている場合の 羽生信号の理想的な値をLevelvとすると、Lev elvは以下の式(15)で表される。

化(CO, C1は任意の正の数)が 【0087】 Levelv=0×b_{k-2}+C1×b_{k-1}+0×b_k …(15)

> る。 【0089】 【表4】

最小極性反転間隔2とPR (CO, C1, CO) 等化の制約から定まる状態遷移表

時刻 k-1 での状態 S(b _{k-2} ,b _{k-1})	時刻 k での状態 S(bk-1,bk)	bk / Levelv
S (0, 0)	\$ (0, 0)	0/0
S (0, 0)	. S (0, 1)	1/00
S (0, 1)	5 (1, 1)	1 / C0+C1
S (1, 1)	S (1, 0)	0/01+C0
S (1, 1)	S (1, 1)	1/C0+C1+C0
S (1, 0)	S (0, 0)	0/00

【0090] 簡単のために時刻kでの状態を (0,0) を S0、状態を (0,1) kを S1 k、状態を (1,1) kを S 2、状態を (1,0) kを S1 kというように表記する。この場合の状態運移は図17に示す状態運移図で示され、 また、これを時間軸に関して展開すると図18に示すト レリス図が得られる。 であり、PR(CO, CI, CO)等化が用いられているという条件の下では、ある時期の所定の状態から別の時刻 所定の状態。選挙すると客に2つの状態選挙 (バスAおよびバスB)を取り得るような状態選挙パターン(状態の組み合わせ)は表5に示すように6週り存在する。 [0092]

【0091】ここで、記録符号の最小極性反転間隔が2 【表5】

2つの運移をとりうる状態運移と対応するパス

状態遷移	パスAの記録符号	パスBの記録符号
	(b_{k-1}, \cdots, b_k)	(b_{k-i}, \cdots, b_k)
S0k-3 → S2k	(0,0,0,1,1)	(0,0,1,1,1)
S2k-3 → S0k	(1,1,0,0,0,)	(1,1,1,0,0)
S0k-8 → S0k	(0,0,0,0,0,0)	(0,0,1,1,0,0)
$S2_{k-8} \rightarrow S2_k$	(1,1,0,0,1,1)	(1,1,1,1,1,1)
50k-4 → 50k	(0,0,0,1,1,0,0)	(0,0,1,1,0,0,0)
S2k-4 → S2k	(1,1,0,0,0,1,1)	(1,1,1,0,0,1,1)

(12))03-141823 (P2003-141823A)

【0093】ここで、パスAとパスBとのいずれがより 確からしいかが判断される。この判断は、パスAが示す 理想的なサンプル値(期待値)と実際のサンプル値との ずれの大きさと、バスBが示す理想的なサンプル値(期 特値)と実際のサンプル値とのずれの大きさとを比較す ることによって行なうことができる。

【0094】例えば、状態遷移SOk-a → S2 が推定され たとすると、パスA (SO.- , SO.- , S1. , S2.) パス B(SO_{k-3} S1_{k-1}, S2_{k-1}, S2_k)のいずれを遷移した場合 であっても時刻k-3では状態SOL。をとり、時刻k ではS2、をとる。この場合、時刻k-2から時刻kまで

の期待値と再生信号の値 y_{k-2} 、 y_{k-1} 、 y_k との差の2 衆の累積値によってバスAかバスBのどちらの状態遷移 がより確からしいかが判断される。ここで、パスAが示 す時刻k-2から時刻kまでの期待値のそれぞれと再生 信号yk-2からykまでの値との差の2乗の異積値をPa とし、パスBの時刻k-2から時刻kまでの期待値と再 生信号y_{k-2}からy_kまでの値との差の2乗の累積値をP bとすると、果積値Paは以下の式 (16) で表され、果 積値Pbは以下の式(17)で表される。 [0095]

...(16)

100961

Pb=
$$(y_{k-2}-C0)^2 + (y_{k-1}-(C0+C1))^2 + (y_k-(2\times C0+C1))^2 \cdots (17)$$

【0097】ここで、Pa<<PbであればパスAの可能性 が高いと推定され、Pa>>PbであればパスBの可能性が 高いと推定される。すなわち、最小極性反転間隔が2で ある記録符号とPR (CO, C1, CO) 等化を用いた場合に おいても、「Pa-Pb | を用いて復号結果の信頼性を 判断することができる。また、| Pa-Pb | の分布に 基づいて再生信号の品質の評価(譲り座の推定)を行か うことができる。

【0098】また、白色のノイズが伝送路に重量された 場合を考えると、誤りをもっとも起こしうる状態遷移は パスAとパスBとのユークリッド距離が最小となるものと 考えられる。このようにユークリッド距離が最小となる 2つのパスを取るものとしては、以下の表6に示す2通 りの状態遷移のパターンが挙げられる。 [0099] 【表6】

2 つの遷移をとりうる状態遷移と対応するパス

Pa= $(y_{k-2}-0)^2 + (y_{k-1}-0)^2 + (y_k - (01+02))^2$

状態遷移	パスAの配銀符号 (bk-1,・・・・,bk)	バスBの記録符号 (b _{k-i} ,・・・・,b _k)
S0k-s → S2k	(0,0,0,1,1)	(0,0,1,1,1)
S2k-3 → S0k	(1,1,0,0,0,)	(1,1,1,0,0)

【0100】ここで、復号結果をこ。とし(kは数

まとめると式(18)が得られる。 [0101]

数)、表6に示す状態遷移における信頼性Pa-Pbを $(c_{k-4}, c_{k-9}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,x,1,1)$ $0 \ge 5$

 $Pa-Pb=(AA_{k-2}-BB_{k-2}) + (BB_{k-1}-CC_{k-1}) + (CC_k-DD_k)$

 $(c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1.1, x, 0.0) のとき$ $Pa - Pb = (CC_{k-2} - DD_{k-2}) + (BB_{k-1} - CC_{k-1}) + (AA_k - BB_k)$...(18)

【0102】ここで、AA_k、BB_k、CC_k、DD_kは以下の式で 表される。

 $BB_k = (y_k - C0)^2$ $DD_k = (y_k - (2 \times C0 + C1))^2$

 $AA_k = (y_k - 0)^2,$ $CC_k = (y_k - (CO+C1))^2$ 【0104】復号結果c,から式(18)を満たす | Pa

-Pb | - (2×CO2+C12)を求め、その分布から標準 偏差σと平均値Paveを求める。分布が正規分布であ ると仮定すると、誤りを起こす確率は式(19)で表され る。したがって標準偏差σと平均値Paveより再生信号の 誤り率を推定でき、信号品質の指標とすることができ

ъ. [0105]

[数8]

 $P(\sigma, Pave) = erfc(\frac{Pave}{\sigma})$...(19)

【0106】このようにして、最小極性反転間隔が2で ある記録符号が用いられるとともにPR(CO.C1.

C0)等化が適用されている場合にも、所定の状態遷移 をとるパスの所定の期間における確からしさの差 | Pa -Pb | に基づいて、再生信号の品質を評価することが できる。

【0107】以下、上記の形態とは異なる形態として、 最小極性反転間隔が2である符号とPR(CO, C1, C2, C1, CO) 等化が適用される形態について説明する。な お、CO、C1、C2は任意の正の数である。 【0108】記録符号を以下のように表記する。

(表3)103-141823 (P2003-141823A)

【0109】 現時刻の記録符号: b_k 1時刻前の記録符号: b_{k-1} 2時刻前の記録符号: b_{k-2} 3時刻前の記録符号: b_{k-2} 4時刻前の記録符号: b_{k-4} 【0110】PR(OD, CI, C2, CI, CO) 等化されている場合の再生信号の理想的な値をしてマートンとすると、Levelvは以下の式(20)で表される。 【0111】

Levelvelvectxb_{k-4}+C1×b_{k-3}+C2×b_{k-2}+C1×b_{k-1}+C0×b_k ...(20)

【0112】ここでkは時刻を表す整数、vは0~8ま 遷移表が得られる。 での整数である。また、時刻kでの状態をS(b_{k-3}, b_{k-1}, b_{k-1}, b_k)とすると、以下の表7に示すような状態 【表7】

最小極性反転関隔2とPR (CO, C1, C2, C1, C0) 学化の制約から定まる状態運輸す

後小極性反転開隔2とPR (CO, C1, C2, C1, CO) 等化の制約から定虫る状態層			
時刻 k・1 での状態	時刻とでの状態	bk / LEVELv	
S (bk-4, bk-2, bk-2, bk-1)	S (bk-s, bk-2, bk-1, bk)		
8(0,0,0,0)	5(0,0,0,0)	0/0	
S(0,0,0,0)	S(0,0,0,1)	1/C0	
S(0,0,0,1)	S(0,0,1,1)	1/C0+C1	
S(0,0,1,1)	5(0,1,1,0)	0/C1+C2	
S(0,0,1,1)	8(0,1,1,1)	1/C0+C1+C2	
S(0,1,1,0)	8(1,1,0,0)	0/C1+C2	
S(0,1,1,1)	S(1,1,1,0)	0/2*C1+C2	
5(0,1,1,1)	S(1,1,1,1)	1/C0+2*C1+C2	
S(1,0,0,0)	S(0,0,0,0)	0/C0	
S(1,0,0,0)	S(0,0,0,1)	1/2*C0	
S(1,0,0,1)	S(0,0,1,1)	1/2*C0+C1	
S(1,1,0,0)	S(1,0,0,0)	0/C0+C1	
S(1,1,0,0)	S(1,0,0,1)	1/2*C0+C1	
S(1,1,1,0)	S(1,1,0,0)	0/C0+C1+C2	
S(1,1,1,1)	S(1,1,1,0)	0/C0+2*C1+C2	
S(1,1,1,1)	S(1,1,1,1)	1/2*C0+2*C1+C2	

【0114】簡単のために時期とでの状態S (0,0,0,0) 点を50点、状態S (0,0,0,1)を51点、状態S (0,0,1) 1)を52点、状態S (0,1,1,1)を53点、状態S (1,1,1,1)を53点、状態S (1,1,1,0)を53点、状態S (1,1,1,0)を55点、状態S (1,0,0)を55点、状態S (1,0,0)を55点、状態S (1,0,0)を55点、状態S (1,1,0)を55点というように表記する。この場合の状態運移は図19に示す状態運移図で示され、また、これを時間軸に関して展開すると図20に示すトレリス図が得られる。 【0115]とこで、記録符号の最小極性反転間隔が2であり、PR(00, Cl, C2, Cl, 00) 等化が用いられているという条件の下では、ある時刻の別定の検数から別の時刻の所定の状態へ獲移するときに2つの状態遷移(パスムおよびパスB)を取り得るような状態遷移パクーン(状態の場合わせ)は表8~10に示すように90通り存在する。

【0116】

(数4))03-141823 (P2003-141823A)

2つの運移をとりうる状態運移と対応するパス

状態遷移	バスAの記録符号	パスBの記録符号
	(b_{k-1}, \cdots, b_k)	(b_{k-1}, \cdots, b_k)
S0k-5 → S6k	(0,0,0,0,0,1,1,0,0)	(0,0,0,0,1,1,1,0,0)
S0k-5 → S5k	(0,0,0,0,0,1,1,1,0)	(0,0,0,0,1,1,1,1,0)
$S0_{k-5} \rightarrow S4_k$	(0,0,0,0,0,1,1,1,1)	(0,0,0,0,1,1,1,1,1)
$S2_{k\cdot 5} \rightarrow S0_k$	(0,0,1,1,0,0,0,0,0)	(0,0,1,1,1,0,0,0,0)
$S2_{k-5} \rightarrow S1_k$	(0,0,1,1,0,0,0,0,1)	(0,0,1,1,1,0,0,0,1)
$S2_{k-5} \rightarrow S2_k$	(0,0,1,1,0,0,0,1,1)	(0,0,1,1,1,0,0,1,1)
S8k-5 → S0k	(0,1,1,1,0,0,0,0,0)	(0,1,1,1,1,0,0,0,0)
S8k-5 → S1k	(0,1,1,1,0,0,0,0,1)	(0,1,1,1,1,0,0,0,1)
S3k-5 → S2k	(0,1,1,1,0,0,0,1,1)	(0,1,1,1,1,0,0,1,1)
87k-5 → S6k	(1,0,0,0,0,1,1,0,0)	(1,0,0,0,1,1,1,0,0)
S7k-5 → S5k	(1,0,0,0,0,1,1,1,0)	(1,0,0,0,1,1,1,1,0)
S7k-5 → S4k	(1,0,0,0,0,1,1,1,1)	(1,0,0,0,1,1,1,1,1)
S6k-8 → S6k	(1, 1,0,0,0,1,1,0,0)	(1,1,0,0,1,1,1,0,0)
S6k-5 → S5k	(1,1,0,0,0,1,1,1,0)	(1,1,0,0,1,1,1,1,0)
S6k-6 → S4k	(1,1,0,0,0,1,1,1,1)	(1,1,0,0,1,1,1,1,1)
S4k-5 → S0k	(1,1,1,1,0,0,0,0,0)	(1,1,1,1,1,0,0,0,0)
$S4_{k-5} \rightarrow S1_k$	(1,1,1,1,0,0,0,0,1)	(1,1,1,1,1,0,0,0,1)
S4k·5 → S2k	(1,1,1,1,0,0,0,1,1)	(1,1,1,1,1,0,0,1,1)
$S0_{k-6} \rightarrow S0_k$	(0,0,0,0,0,0,0,0,0)	(0,0,0,0,1,1,0,0,0,0)
S0k-6 → S1k	(0,0,0,0,0,0,0,0,1)	(0,0,0,0,1,1,0,0,0,1)
S0k-6 → S2k	(0,0,0,0,0,0,0,1,1)	(0,0,0,0,1,1,0,0,1,1)
52k-6 → 86k	(0,0,1,1,0,0,1,1,0,0)	(0,0,1,1,1,1,1,1,0,0)
52k-6 → S5k	(0,0,1,1,0,0,1,1,1,0)	(0,0,1,1,1,1,1,1,1,0)
S2k-6 → S4k	(0,0,1,1,0,0,1,1,1,1)	(0,0,1,1,1,1,1,1,1)
S8k-6 → S6k	(0,1,1,1,0,0,1,1,0,0)	(0,1,1,1,1,1,1,1,0,0)
88k-6 → 85k	(0,1,1,1,0,0,1,1,1,0)	(0,1,1,1,1,1,1,1,0)
S3k-6 → S4k	(0,1,1,1,0,0,1,1,1,1)	(0,1,1,1,1,1,1,1,1)
S7k-6 → S0k	(1,0,0,0,0,0,0,0,0,0)	(1,0,0,0,1,1,0,0,0,0)
S7k-6 → S1k	(1,0,0,0,0,0,0,0,1)	(1,0,0,0,1,1,0,0,0,1)
S7k-6 → S2k	(1,0,0,0,0,0,0,1,1)	(1,0,0,0,1,1,0,0,1,1)
S6k-6 → S0k	(1,1,0,0,0,0,0,0,0,0)	(1,1,0,0,1,1,0,0,0,0)
S6k-6 → S1k	(1,1,0,0,0,0,0,0,0,1)	(1,1,0,0,1,1,0,0,0,1)
S6k-6 → S2k	(1,1,0,0,0,0,0,0,1,1)	(1,1,0,0,1,1,0,0,1,1)
S4k·6 → S6k	(1,1,1,1,0,0,1,1,0,0)	(1,1,1,1,1,1,1,0,0)
S4k-6 → S5k	(1,1,1,1,0,0,1,1,1,0)	(1,1,1,1,1,1,1,1,0)
S4k-6 - S4k	(1,1,1,1,0,0,1,1,1,1)	(1,1,1,1,1,1,1,1,1)

[0117] [表9]

(45))03-141823 (P2003-141823A)

状態遷移	パスAの記録符号	パスBの配録符号
	(b_{k-i}, \cdots, b_k)	(b_{k-i}, \cdots, b_k)
S0k-7 → S0k	(0,0,0,0,0,1,1,0,0,0,0)	(0,0,0,0,1,1,0,0,0,0,0,0)
S0k-7 → S1k	(0,0,0,0,0,1,1,0,0,0,1)	(0,0,0,0,1,1,0,0,0,0,1)
$S0_{k-7} \rightarrow S2_k$	(0,0,0,0,0,1,1,0,0,1,1)	(0,0,0,0,1,1,0,0,0,1,1)
S2k-7 → S6k	(0,0,1,1,0,0,1,1,1,0,0)	(0,0,1,1,1,0,0,1,1,0,0)
$S2_{k-7} \rightarrow S5_k$	(0,0,1,1,0,0,1,1,1,1,0)	(0,0,1,1,1,0,0,1,1,1,0)
$S2_{k-7} \rightarrow S4_k$	(0,0,1,1,0,0,1,1,1,1,1)	(0,0,1,1,1,0,0,1,1,1,1)
S8k-7 → S6k	(0,1,1,1,0,0,1,1,1,0,0)	(0,1,1,1,1,0,0,1,1,0,0)
\$8k-7 → \$5k	(0,1,1,1,0,0,1,1,1,1,0)	(0,1,1,1,1,0,0,1,1,1,0)
S8k-7 → S4k	(0,1,1,1,0,0,1,1,1,1,1)	(0,1,1,1,1,0,0,1,1,1,1)
$S7_{k-7} \rightarrow S0_k$	(1,0,0,0,0,1,1,0,0,0,0)	(1,0,0,0,1,1,0,0,0,0,0)
S7k-7 → S1k	(1,0,0,0,0,1,1,0,0,0,1)	(1,0,0,0,1,1,0,0,0,0,1)
$S7_{k\cdot7} \rightarrow S2_k$	(1,0,0,0,0,1,1,0,0,1,1)	(1,0,0,0,1,1,0,0,0,1,1)
96k-7 → 90k	(1,1,0,0,0,1,1,0,0,0,0)	(1,1,0,0,1,1,0,0,0,0,0)
S6k-7 → S1k	(1,1,0,0,0,1,1,0,0,0,1)	(1,1,0,0,1,1,0,0,0,0,1)
$S6_{k\cdot7} \rightarrow S2_k$	(1,1,0,0,0,1,1,0,0,1,1)	(1,1,0,0,1,1,0,0,0,1,1)
S4k-7 → S6k	(1,1,1,1,0,0,1,1,1,0,0)	(1,1,1,1,1,0,0,1,1,0,0)
S4k-7 → S5k	(1,1,1,1,0,0,1,1,1,1,0)	(1,1,1,1,1,0,0,1,1,1,0)
84k-7 → 84k	(1,1,1,1,0,0,1,1,1,1,1)	(1,1,1,1,1,0,0,1,1,1,1)
$50_{k-8} \rightarrow 50_k$	(0,0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0)	(0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0,0)
S0k-8 → S1k	(0,0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,1)	(0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0,1)
$S0_{k\cdot 8} \rightarrow S2_k$	(0,0,0,0,0,1,1,1,0,0,1,1)	(0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,1,1)
S2k-8 + S6k	(0,0,1,1,0,0,0,1,1,1,0,0)	(0,0,1,1,1,0,0,0,1,1,0,0)
S2k-8 → S5k	(0,0,1,1,0,0,0,1,1,1,1,0)	(0,0,1,1,1,0,0,0,1,1,1,0)
S2k-8 → S4k	(0,0,1,1,0,0,0,1,1,1,1,1)	(0,0,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1)
S3k-s → S6k	(0,1,1,1,0,0,0,1,1,1,0,0)	(0,1,1,1,1,0,0,0,1,1,0,0)
S3k-6 → S5k	(0,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1,0)	(0,1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,0)
S3k-8 → S4k	(0,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1,1,1)	(0,1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1)
S7k-8 → S0k	(1,0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0)	(1,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0,0,0)
S7k-0 → S1k	(1,0,0,0,0,1,1,1,0,0,0,1)	(1,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0,1)
S7k-8 → S2k	(1,0,0,0,0,1,1,1,0,0,1,1)	(1,0,0,0,1,1,1,0,0,0,1,1)
S6k-8 → S0k	(1,1,0,0,0,1,1,1,0,0,0,0)	(1,1,0,0,1,1,1,0,0,0,0,0,0)
S6k-8 → S1k	(1,1,0,0,0,1,1,1,0,0,0,1)	(1,1,0,0,1,1,1,0,0,0,0,0,1)
$86_{k-8} \rightarrow 82_k$	(1,1,0,0,0,1,1,1,0,0,1,1)	(1,1,0,0,1,1,1,0,0,0,1,1)
S4k-8 → S6k	(1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,0,0)	(1,1,1,1,1,0,0,0,1,1,0,0)
S4k-8 → SUk	(1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1,0)	(1,1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,0)
S4k-8 → S4k	(1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1,1)	(1,1,1,1,1,0,0,0,1,1,1,1)

[0118] [表10]

(86))03-141823 (P2003-141823A)

状態遷移	バスAの記録符号	パスBの記録符号
	(b_{k-i}, \cdots, b_k)	(b_{k-1}, \cdots, b_k)
$50_{k-9} \rightarrow 50_k$	(0,0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,0)	(0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,0,0)
S0k-9 → S1k	(0,0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,1)	(0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,1)
$S0_{k\cdot 0} \rightarrow S2_k$	(0,0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,1,1)	(0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,1,1)
S2k-9 → S6k	(0,0,1,1,0,0,0,0,1,1,1,0,0)	(0,0,1,1,1,0,0,0,0,1,1,0,0)
\$2 _{k-0} → \$5 _k	(0,0,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,0)	(0,0,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,0)
$S2_{k\cdot 9} \rightarrow S4_k$	(0,0,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,1)	(0,0,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1)
S8k-9 → S6k	(0,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,0,0)	(0,1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,0,0)
\$3 _{k-9} → \$5 _k	(0,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,1,0)	(0,1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,0)
33k-9 → 54k	(0,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,1)	(0,1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,1)
$S7_{k-9} \rightarrow S0_k$	(1,0,0,0,0, i,1,1,1,0,0,0,0)	(1,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,0)
S7k-9 → S1k	(1,0,0,0,0, l,1,1,1,0,0,0,1)	(1,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,1)
$S7_{k-9} \rightarrow S2_k$	(1,0,0,0,0,1,1,1,1,0,0,1,1)	(1,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,1,1)
$S6_{k\cdot 0} \rightarrow S0_k$	(1,1,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0)	(1,1,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,0,0)
$S6_{k-9} \rightarrow S1_k$	(1,1,0,0,0,1,1,1,1,0,0,0,1)	(1,1,0,0,1,1,1,1,0,0,0,0,1)
S6k-9 → S2k	(1,1,0,0,0,1,1,1,1,0,0,1,1)	(1,1,0,0,1,1,1,1,0,0,0,1,1)
S4k-9 → S6k	(1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,0,0)	(1,1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,0,0)
$S4_{k-9} \rightarrow S5_k$	(1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,0)	(1,1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,0)
S4k-9 → S4k	(1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1,1,1)	(1,1,1,1,1,0,0,0,0,1,1,1,1)

【0119】なお、表8~10は便宜上3つの表に分けられているが、1つの表にまとめられても良い。 【0120】ここで、パスAとパスBとのいずれがより

(0120) ここで、バススとバス名とのいずれがより 種類からしいが対策がされる。この判断は、バススとバスを 理想的なサンプル値(期待値)と実際のサンプル値との ずれの大きさと、バスBが示す理想的なサンプル値(期 特値)と実際のサンプル値とのずれの大きさとを比較す ることによって行なうことができる。

【0121】例えば、状態遷移 $SO_{k-6} \rightarrow SO_k$ が推定されたとすると、パスA、パスBの何れを遷移した場合で

P a = $(y_{k-4} - 0)^2 + (y_{k-3} - 00)^2 + (y_{k-2} - (C0+C1))^2 + (y_{k-1} - (C0+C1+C2))^3 + (y_{k-4} - (C0+C1+C2))^3 + (y_{k-4} - (C0+C1+C2))^3$

[0123]

Pb= $(y_{k-4}-C0)^2 + (y_{k-3}-(C0+C1))^2 + (y_{k-2}-(C0+C1+C2))^2 + (y_{k-1}-(C0+2\times C1+C2))^2 + (y_k-(C0+2\times C1+C2))^2 \cdots (22)$

【0124】ここでPaく<Pbであれば、バスAの可能性が高いと推定され、Pa>>Pbであれば、バスBの可能性が高いと推定され。まっなわち、最小衛性反転間隔が2である符号とPa(O、Cl、C2、Cl、O)等化を用いた場合においても、Pa-Pb | の分布に塞づいて再生信号の品質の評価(誤り率の推定)を行なうことができる。また、「Pa-Pb | の分布に塞づいて再生信号の品質の評価(誤り率の推定)を行なうことができる。

【0125】白色のノイズが伝送路に重量された場合を 考えると、誤りをもっとも超こしうる状態運称はバスA とバスBのユークリッド距離が最小となるものとなるの であり、以下の表11に示す16週りの状態遷移が挙げ られる。

あっても時刻k-5では状態SOLsをとり、時刻kで

は56kをとることから、時刻k-4から時刻kまでの再

生信号の値、y_{k-4}、y_{k-3}、y_{k-2}、y_{k-1}、y_kと期待

値との差の2乗の累積値によってパスAかパスBのどち

らの状態遷移がより確からしいかが判断される。バスA

における期待値と実際の値との差の2乗の累積値をPa

とし、パスBにおける期待値と実際の値との差の2乗の

果積値をPbとすると、累積値Paは以下の式(21)で

表され、果積値Pbは以下の式(22)で表される。

[0126]

[0122]

【表11】

(17) 103-141823 (P2003-141823A)

ユークリッド距離が最小となる遷移と対応するパス

状態遷移	パスAの配象符号	パスBの記録符号
	(b_{k-1}, \cdots, b_k)	(b_{k-i}, \cdots, b_{k})
S0k-5 → S6k	(0,0,0,0,0,1,1,0,0)	(0,0,0,0,1,1,1,0,0)
S0k-5 → S5k	(0,0,0,0,0,1,1,1,0)	(0,0,0,0,1,1,1,1,0)
S0k-8 → S4k	(0,0,0,0,0,1,1,1,1)	(0,0,0,0,1,1,1,1,1)
S2k-5 → S0k	(0,0,1,1,0,0,0,0,0)	(0,0,1,1,1,0,0,0,0)
S2k-5 → S1k	(0,0,1,1,0,0,0,0,1)	(0,0,1,1,1,0,0,0,1)
$S2_{k:5} \rightarrow S2_k$	(0,0,1,1,0,0,0,1,1)	(0,0,1,1,1,0,0,1,1)
S3k-5 → S0k	(0,1,1,1,0,0,0,0,0)	(0,1,1,1,1,0,0,0,0)
S3k-5 → S1k	(0,1,1,1,0,0,0,0,1)	(0,1,1,1,1,0,0,0,1)
S3k-5 → S2k	(0,1,1,1,0,0,0,1,1)	(0,1,1,1,1,0,0,1,1)
S7k-5 → S6k	(1,0,0,0,0,1,1,0,0)	(1,0,0,0,1,1,1,0,0)
57k-5 → S5k	(1,0,0,0,0,1,1,1,0)	(1,0,0,0,1,1,1,1,0)
S7k-5 → S4k	(1,0,0,0,0,1,1,1,1)	(1,0,0,0,1,1,1,1,1)
S6k-5 → S6k	(1,1,0,0,0,1,1,0,0)	(1,1,0,0,1,1,1,0,0)
S6k-5 → S5k	(1,1,0,0,0,1,1,1,0)	(1,1,0,0,1,1,1,1,0)
S6k-5 → S4k	(1,1,0,0,0,1,1,1,1)	(1,1,0,0,1,1,1,1,1)
S4k-5 → S0k	(1,1,1,1,0,0,0,0,0)	(1,1,1,1,1,0,0,0,0)
$S4_{k-\delta} \rightarrow S1_k$	(1,1,1,1,0,0,0,0,1)	(1,1,1,1,1,0,0,0,1)
S4k-5 → S2k	(1,1,1,1,0,0,0,1,1)	(1,1,1,1,1,0,0,1,1)

 $(c_{k-8}, c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,0,0,x,1,1,0,0)$ のとき

 $Pa - Pb = (AA_{k-4} - BB_{k-4}) + (BB_{k-3} - CC_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (DD_{k-1} - FF_{k-1}) + (DD_k - EE_k)$

0)のとき Paーb= $(AA_{k-4}-BB_{k-4})+(BB_{k-3}-CC_{k-3})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(EE_{k-1}-GG$

1)のとき $Pa-Pb=(AA_{k-4}-BB_{k-4})+(BB_{k-3}-CC_{k-3})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(EE_{k-1}-GG)$

 $Pa-Pb=(DD_{k-6}-EE_{k-6})+(DD_{k-3}-FF_{k-3})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(BB_{k-1}-CC_{k-1})+(AA_k-BB_k)$

1)のとき $Pa-Pb=(DD_{k-4}-EE_{k-4})+(DD_{k-3}-FF_{k-3})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(BB_{k-1}-CC$

(3 - (3 - (3 - 2) + (3 -

 $(c_{k-8}, c_{k-7}, c_{k-8}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,0,1,1,x,0,0,1,1)のとき$

 $Pa - Pb = (DD_{k-4} - EE_{k-4}) + (DD_{k-3} - FF_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (HH_{k-1} - II_{k-1}) + (CC_{k-1}I_{k})$

(18))03-141823 (P2003-141823A)

ののとき $Pa - Pb = (FF_{k-4} - GG_{k-4}) + (EE_{k-3} - GG_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (BB_{k-1} - CC)$ h_{-1}) + (AA_{ν} - BB_{ν}) 1)のとき $Pa - Pb = (FF_{k-4} - GG_{k-4}) + (EE_{k-3} - GG_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (BB_{k-1} - CC$ 4-1) + (BB_k-HH_k) $(c_{k-8}, c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-5}, c_{k-4}, c_{k-3}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (0,1,1,1,x,0,0,1,$ 1)のとき $Pa - Pb = (FF_{k-4} - GG_{k-4}) + (EE_{k-3} - GG_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (HH_{k-1} - II)$ L-1) + (CCL - IIL) 0)のとき $Pa-Pb=(BB_{k-4}-HH_{k-4})+(BB_{k-3}-CC_{k-3})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(DD_{k-1}-FF$ + (DD, -EE,) 0)のとき $Pa - Pb = (BB_{k-4} - HH_{k-4}) + (BB_{k-3} - CC_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (EE_{k-1} - GG) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (EE_{k-1} - GG) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (CC_{k-3} - EE_{k-2}) + (CC_{k-3} - EE_{k-3}) + (CC_{k$ k-1) + (FFk-GGL) 1)のとま $Pa-Pb=(BB_{k-4}-HH_{k-4}) + (BB_{k-3}-CC_{k-3}) + (CC_{k-2}-EE_{k-2}) + (EE_{k-1}-GG) + (CC_{k-2}-EE_{k-2}) + (EE_{k-1}-GG) + (EE_{k-1}-GG)$ $(GG_k - JJ_k)$ $(c_{k-8}, c_{k-7}, c_{k-6}, c_{k-6}, c_{k-4}, c_{k-8}, c_{k-2}, c_{k-1}, c_k) = (1,1,0,0,x,1,1,0,$ $Pa-Pb=(CC_{k-4}-II_{k-4})+(HH_{k-3}-II_{k-3})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(DD_{k-1}-FF)$...) + (DD, -EE,) 0)のとき $Pa-Pb=(CC_{k-4}-II_{k-4})+(HH_{k-3}-II_{k-3})+(CC_{k-3}-EE_{k-3})+(EE_{k-3}-GG$ ν-1) + (FF_ν −GG_ν) 1)のとき $Pa-Pb=(CC_{k-4}-II_{k-4})+(HH_{k-2}-II_{k-2})+(CC_{k-2}-EE_{k-2})+(EE_{k-1}-GG$ $_{k-1}$) + ($GG_k - JJ_k$) 0)のとき $Pa-Pb=(GG_{k-4}-JJ_{k-4}) + (EE_{k-3}-GG_{k-3}) + (CC_{k-2}-EE_{k-2}) + (BB_{k-1}-CC$ k-1) + ($AA_k - BB_k$)

1)のとき PaーPb= (GG_{k-4}-JJ_{k-4}) + (EE_{k-3}-GG_{k-2}) + (CC_{k-7}-EE_{k-7}) + (BB_{k-1}-CC

1)のとき PaーPb= (GG_{k-4} – JJ_{k-4}) + (EE_{k-3} – GG_{k-3}) + (CC_{k-2} – EE_{k-2}) + (HH_{k-1} – II

 $Pa = Pb = (GG_{k-4} - JJ_{k-4}) + (EE_{k-3} - GG_{k-3}) + (CC_{k-2} - EE_{k-2}) + (HH_{k-1} - II)$ $+ (CC_{k-1}I_{k-1}) + (CC_{k-1}I_{k-1})$

... (23)

 $\{0129\}$ ここで、 AA_k 、 BB_k 、 CC_k 、 DD_k 、 EB_k 、 FF_k 、 [0130] GG_k 、 HH_k 、 II_k 、 $JJ_kは以下の式で表される。$

(19) 103-141823 (P2003-141823A)

$$\begin{array}{cccc} CC_k = (\ y_k - (\text{CO+C1})\)^2 \, & \text{DD}_k = (\ y_k - (\text{C1+C2})\)^2 \\ EE_k = (\ y_k - (\text{CO+C1+C2})\)^2 \, & FF_k = (\ y_k - (2\times\text{C1+C2})\)^2 \\ GG_k = (\ y_k - (\text{C0+2}\times\text{C1+C2})\)^2 \, & \text{III}_k = (\ y_k - 2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0+C1})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \\ II_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2\times\text{C0})\)^2 \, & \text{JJ}_k = (\ y_k - (2$$

 $AA_{k} = (y_{k} - 0)^{2}$

-Pb | - (2×C0²+2×C1²+C2²)を求め、その分 布から標準偏差σと平均値Paveを求める。この分布 が正規分布であると仮定すると、譲りを起こす確率は式 (24) で表される。したがって標準偏差 g と 平均値Pave

$P(\sigma, Pave) = erfc(\frac{Pave}{\sigma})$

【0133】このようにして、最小極性反転間隔が2で ある記録符号が用いられるとともにPR(CO,C1. C2, C1, C0)等化が適用されている場合にも、所 定の状態遷移をとるパスの所定の期間における確からし、 さの差 | Pa-Pb | に基づいて、再生信号の品質を評 価することができる。

【0134】(実施形態2)以下、上記に示したPR (1, 2, 2, 1) 等化を用いるPRML方式によって 復号を行なう場合における各状態の確からしさ、および 復号の信頼性Pa-Pbを計算する方法の具体例につい て詳細に説明する。 【0135】前述のように、PR(1,2,2,1)等

化を用いる場合、図4に示すようなトレリス級図が得ら れる。ここで、各状態SO~S5の時刻kでの確からし さし、80~し、85は、以下に示すように時刻k-1での所定 の状態の確からしさL_{k-1}50~L_{k-1}55と 時刻kでの実際の サンプル値v.とを用いて以下の式(25)で表される。な お、以下の式における演算子min(xxx,zzz]は、xxxとzzz とのうちのいずれか小さい方を選択するものとする。 [0136]

 $BB_{k} = (y_{k} - C0)^{2}$

 $FF_k = (y_k - (2 \times C1 + C2))^2$ $JJ_{k} = (y_{k} - (2 \times 0.0 + 2 \times 0.1 + 0.0))^{2}$ より再生信号の誤り率を推定でき、信号品質を評価する ことができる. [0132]

 $DD_k = (y_k - (C1+C2))^2$

[数9]

... (24)

```
L_k^{ss} = \min[L_{k-1}^{ss} + (y_k + 3)^s, L_{k-1}^{ss} + (y_k + 2)^s]
L_{k}^{31} = \min[L_{k-1}^{30} + (y_{k} + 2)^{2}, L_{k-1}^{36} + (y_{k} + 1)^{3}]
L_{k-1}^{11} = L_{k-1}^{11} + (y_k + 0)^3
L_k^{24} = \min[L_{k-1}^{48} + (y_k-3)^4, L_{k-1}^{48} + (y_k-2)^2]
L_{k}^{\pm 4} = \min[L_{k-1}^{\pm 3} + (y_{k} - 2)^{\pm}, L_{k-1}^{\pm 4} + (y_{k} - 1)^{\pm}]
L_{k}^{15} = L_{k-1}^{14} + (y_{k} + 0)^{1}
```

... (25) 【0137】本実施形態では、時刻k-1での確からし さしょ-1に加算されるプランチメトリック(例えば(y。 +3)2)は常に1/2されるとともにy,2/2が減算 されるものとする。なおPRMし方式では、上述のLiso ~し。86を互いに比較して値が小さくなるものを選択でき れば良いことから、上配のような計算規則をし50~し55 を求める全ての式について適用した場合には復号結果に 影響が及ぶことはない。その結果、各状態50~55の 時刻kでの確からしさしょ50~しょ55は以下の式(26)で表さ ns. [0138]

```
L_k^{50} = \min[L_{k-1}^{50} + (y_k+3)^2/2 - y_k^2/2, L_{k-1}^{55} + (y_k+2)^2/2 - y_k^2/2]
L_k^{51} = \min[L_{k-1}^{50} + (y_k + 2)^2/2 - y_k^2/2, L_{k-1}^{55} + (y_k + 1)^2/2 - y_k^2/2]
L_k^{S2} = L_{k-1}^{S1} + (y_k + 0)^2/2 - y_k^2/2
L_k^{53} = \min[L_{k-1}^{53} + (y_k-3)^2/2 - y_k^2/2, L_{k-1}^{52} + (y_k-2)^2/2 - y_k^2/2]
L_k^{54} = \min[L_{k-1}^{53} + (y_k - 2)^2/2 - y_k^2/2, L_{k-1}^{52} + (y_k - 1)^2/2 - y_k^2/2]
```

...(26)

[0140]

【0139】この式(26)を展開すると、下配の式(27)が 得られる。

```
L_{k^{50}} = min(L_{k-1}^{60} + 3y_{k} + 9/2, L_{k-1}^{55} + 2y_{k} + 2)
L_k^{51} = \min[L_{k-1}^{50} + 2y_k + 2, L_{k-1}^{55} + y_k + 1/2]
Lk62 - Lk-151
L_k^{63} = \min[L_{k-1}^{83} - 3y_k + 9/2, L_{k-1}^{62} - 2y_k + 2]
L_{k}^{54} = \min[L_{k-1}^{52} - 2y_{k} + 2, L_{k-1}^{52} - y_{k} + 1/2]
```

 $L_k^{55} = L_{k-1}^{54} + (y_k + 0)^2 / 2 - y_k^2 / 2$

Lu 55 = Lu . , 54

[0141] ZZT, A_k , B_k , C_k , E_k , F_k , G_k 以下のように定義する。

...(27) [0142]

 $A_k = 3y_k + 9/2 = (y_k - th4) + (y_k - th5) + (y_k - th6)$

(20)103-141823 (P2003-141823A)

$$\begin{split} B_k &= 2y_k + 2 = (y_k - th4) + (y_k - th5) \\ C_k &= y_k + 1/2 = (y_k - th4) \\ E_k &= -y_k + 1/2 = (th3 - y_k) \\ F_k &= -2y_k + 2 = (th3 - y_k) + (th2 - y_k) \end{split}$$

 $G_k = -3y_k + 9/2 = (th3 - y_k) + (th2 - y_k) + (th1 - y_k)$

【 0 1 4 3 】なお、th1=5/2 th2=3/2 th3=1/2 th4=-1/2 th5=-3/2 th6=-5/2を満たすものとする

- 【0144】このようにしてL₁⁵⁰~L₃⁵⁰を上配(27)式に使って求めるようにしておけば、時期ドでサンアル値と、外側出された場合に、理想値とサンアル値との差の2乗の計算を行なわずとも、A₃~G₈に示されるような単類な乗票および加算によって確からしさL₃⁵⁰を求めることが可能である。使って、国務情成を複雑にせずに済むという利点が得られる。
- 【0145]さらに実施形態1で説明したように、2つの取り稀よ水配遷移列(パス人およびパスB)の確からしさの差 | PaーPb | を求めることで信号品質を評価することが可能であるが、このPaーPbを求める計算も 2 突の計算を含まない比較的簡単なものとすることができる。以下、PaーPbの求め方を具体的に説明する。
- 【0146】例えば、実施形態1で説明したように、PR(1,2,2,1)等化が適用されている場合、ユーリッド即能が最小となるパスAおよびパスBについてPaーPbを求めることが望ましい。すなかち、表2に示した状態部隊のうち、Pa=0またほPb=0のときにPaーPbが±10をとる8週りの状態部隊が生じている場合にPaーPbを求めることが望ましい。
- $\{0.147\}$ 例えば、上記8通りの状態運移のうち80 $k_{s4} \rightarrow 54$ の遊移について $Pa-Pbを求める場合について観明する。この場合、バスAは、<math>SO-S1 \rightarrow S2 \rightarrow S3 \rightarrow S4 を遷移する。このときバスAの確からしきPaは(<math>y_{k-1}+0$) $^{1}/2+(y_{k-1}+2)^{2}/2+(y_{k-1}+0)^{2}/2+(y_{k-1}+2)^{2}/2+(y_{k-1$
- [0148] このとき、Pa−Pbは上述のA_k~G_kを 用いて表すことが可能である。具体のには、Pa−Pb = (A_s »-B_{s-3}) +B_{s-3} =F_{s-1+} (E_b -F_s) で表 される。このように本質能形態によれば、Pa−Pb は、サンアル値ッと設定値は1~tibとの単純で加減距 で求められるA_s~G_kを用いた表きれるため、異処の演 算などを行なう必要がなく、比較的容易に求めることが できる。使って、回路機成を複雑にしないですむという 利点が与られる。
- 【0149】なお、上配には遷移 $SO_{k-1} \rightarrow Sd_k$ について のPa-Pbの求め方を説明したが、他の遷移について のPa-Pbも同様に、上記の $A_k \sim G_k$ を用いて表すこ

とが可能である。以下にこれらの例を示す。 【0150】状態遷移 $SO_{k-4} \rightarrow SO_k$ の場合、 $Pa-Pb=(A_{k-3}-B_{k-3})+B_{k-2}-F_{k-1}+\langle F_k$

 $Pa-Pb = (E_{k-3}-F_{k-3}) - F_{k-2} + B_{k-1} + (A_k - B_k)$

状態遷移S 2_{k-4}→S 1_kの場合、

 $Pa-Pb = (E_{k-3}-F_{k-3}) - F_{k-2} + B_{k-1} + (B_k - C_k)$

状態運移S5_{k-4}→S4_kの場合、

 $Pa-Pb = (B_{k-3}-C_{k-3}) + B_{k-2}-F_{k-1} + (E_k - F_k)$

状態運移 $S5_{k-4} \rightarrow S3_k$ の場合、 Pa-Pb=($B_{k-3} - C_{k-3}$)+ $B_{k-2} - F_{k-1}$ +(F_k

-G_k) 状態遷移S3_{k-4}→S0_eの場合。

 $Pa-Pb = (F_{k-3}-G_{k-3}) - F_{k-2}+B_{k-1}+ (A_k - B_k)$

- B_k) 状態遷移S 3_{k-6}→S 1_kの場合、

 $Pa-Pb = (F_{k-3}-G_{k-3}) - F_{k-3} + B_{k-1} + (B_k - C_k)$

【0151】(実施形態3)以下、図7を参照しながら、PRML方式で再生信号の復号を行なう光ディスク 装置100を説明する。

【0152】光ディスク装置100において、光ディスク8から光〜ッド50によって読み出された再生信号は プリアンプシによって増幅され、ACカップリングされたのちAGC(automatic gain controller)10に入力される。AGC10では検尿の波形等化器11の出力が所定の機関となるようゲインが観整される。AGC10から出力された再生信号は、波形等化器11によって波形整形される。波形整形された再生信号は、PLL回路12とA/ア変換器13とに力される。

【01531PLL回路12従再生信号に開班する再生 クロックを生成する。なお、このPLL回路12は、図 1に示した使業のPLL回路(位相比軟器号、LPF6 およびVCO?で構成される回路)と同様の構成を有し たいて良い。また、A/D契機器13は、PLL回路1 2から出力された再生クロックと同期して再生信号のサ ンプリングを行なう。このようにして移られたサンプリ ングデークはA/D変機器13からデジタルフィルク1 4に出力される。

【0154】デジタルフィルタ14は、記録再生系の開 波敷特性がビタビ回路15の想定する特性体束施物態 ではPR(1,2,2,1)等化特性)となるように設定された開 波敷特性をもつ。このデジタルフィルタ14から出力さ れたデータは、最尤[第1号を行なうビタビ回路15に入力 される。ビタビ回路15は、PR(1,2,2,1)等化された 信号を最先後等方式で保守することによって34年デー

(21)103-141823 (P2003-141823A)

タを出力する。

【0155】また、ビタビ回路15からは、復号された 2値化データとともに、時刻ごとのユークリッド距離の 計算結果(ブランチメトリック)が、差分メトリック解析 器16へと出力される。差分メトリック解析器16は ビタビ回路15から得られた2値化データから状態遷移 を判別し、この判別結果とプランチメトリックとによっ て復号結果の信頼性を示すPa-Pbを求める。これに よって復号結果の誤り率を推定することができる。

【0156】以下、図8を参照しながら、ピタビ回路1 5および差分メトリック解析器16について詳細に説明 する。図8は、ビタビ回路15および差分メトリック解

 $A_k = (y_k - 0)^2$, $B_k = (y_k - 1)^2$, $C_k = (y_k - 2)^2$, $D_k = (y_k - 3)^2$.

 $E_k = (y_k - 4)^2$, $F_k = (y_k - 5)^2$, $G_k = (y_k - 6)^2$

【0158】このようにして計算されたプランチメトリ ックは、加算/比較/選択回路18に入力される。入力 された時刻kでのブランチメトリックと時刻k-1での 各状態の確からしさ (メトリック値)とから、時刻 kで の各状態S0~S5 (図4拳照) の確からしさが求ま る。各状態の確からしさは式(29)で表される。なお、mi n[xxx,zzz]は、xxxまたはzzzのうちの小さい方の値を選

択する関数である。 [0159]

```
I_{4}^{**} = \min[L_{k-1}^{**} + A_{k}, L_{k-1}^{**} + B_{k}]
L_{k}^{s_{1}} = \min[L_{k-1}^{s_{0}} + B_{k}, L_{k-1}^{s_{0}} + C_{k}]
L_{k-1}^{11} = L_{k-1}^{11} + D_{k}
I_{k}^{11} = \min [L_{k-1}^{10} + G_{k}, L_{k-1}^{10} + F_{k}]
I_{4}^{14} = \min[L_{k-1}^{14} + P_{k}, L_{k-1}^{12} + E_{k}]
la 16 - la - , 14 + Da
```

...(29) 【0160】時刻kでのメトリック値しいる0~しいるはレ

L_{k-1}50 + A_k ≥ L_{k-1}65 + B_k Lh-150 + Ak < Lh-156 + Bu L_{k-1}80 + B_k ≥ L_{k-1}85 + C_k L, 50 + B, < L, 55 + C, L_{k-1}83 + G_k ≥ L_{k-1}82 + F_k $L_{k-1}^{53} + G_k < L_{k-1}^{52} + F_k$ Lk-153 + Fk 2 Lk-152 + Ek

Lk-183 + Fk < Lk-182 + EL

【0162】パスメモリ20は、入力された制御信号に 基づいて状態遷移則に従う最も確からしい状態遷移列を 推定することができ、この推定された状態遷移列に対応 する2値化データのを出力する。

【0163】一方、再生信号の品質の評価を行なうため に、ブランチメトリック演算回路17から出力されたブ ランチメトリックは遅延回路21に入力され、加算/比 較/選択回路18およびパスメモリ20における信号処 理時間分だけ遅延された後に差分メトリック演算器22 に出力される。また、パスメモリ20から出力された2 値化データcxは状態遷移検出器23に入力され、ここに

折器16の構成を示す。デジタルフィルタ14から出力 されたサンプル値y。は、ビタビ回路15のブランチメ トリック演算回路17に入力される。 ブランチメトリッ ク演算回路17では、サンプル値 y、と期待値levelyと の距離に相当するブランチメトリックが計算される。P R(1.2.2,1)等化が用いられているため、期待値levely は0~6までの7つの値を持つ、時刻とにおける。それ ぞれの期待値とサンプル値y。との距離を表すブランチ メトリックAk、Bk、Ck、Dk、Ek、Fk、Gxのそれ ぞれは下記の式(28)で規定される。 [0157]

--- (28)

ジスタ19に格納され、つぎの時刻k+1での各状態の メトリック値の演算に用いられる。また、回路18は、 式(29)に従ってメトリック値が最小となる状態悪彩を選 択するとともに、下配の式 (30)に示すように選択結果 に基づいて制御信号Sel0~Sel3を、図9に示す回路構成 を有するパスメモリ20に出力する。

[0161]

```
: Sel0 ='1'
  : Sel0 ='0'
: Sel1 ='1'
   : Sel1 ='0'
 : Sel2 ='1'
: Sel2 ='0'
 : Sel3 ='1'
```

: Sel3 ='0'

おいて2値化データの所定のバターンの検出が行なわれ る。具体的には、上述の式(9)に示される8通りの状態 遷移に対応するデータパターンの検出が行なわれる、差 分メトリック演算器22は、状態遷移検出器23が所定 の状態遷移を検出したときに、上述の式(9)に従って、 その検出された状態遷移についてのPa-Pbを計算す

... (30)

【0164】なお、Pa~Pbは、実施形態2で説明し たような2乗の演算を含まないような計算方法で求める ことも可能である。実施形態2の方法によれば Pa-Pbは、ブランチメトリック演算回路17で計算される

ブランチメトリックを用いることなく求められ得る。使って、このような場合には、ディジタルフィルク14かの出力されてナンアル値の、全温原回路21のみを介して直接的に連分メトリック演算器22に入力するような回路構成を採用すればよい、差分メトリック演算器22では、実施形態2で説明したような方法に使って、サンアル値ッからPaーPbが求められ得る。

【0165】このようにして計算された、検出された所 定の状態遷移についてのPa-Pbの値は、平均値/編 準備差演算器24に入力される。平均値/標準偏差演算 器24は入力されたPa-Pbの分布の平均値と駆機値 差を求め、これらの2つの値(すなわち、平均値Pav e; 。および標準偏差 σ; 。)を出力する。なお、ここで出 力される平均値Paveioおよび標準偏差のioは、2つ のパスのユークリッド距離が最小値をとる(すなわち パスを誤る可能性が高い) 所定の状態遷移についての値 である。式(11)に基づいて、平均値Pavenおよび標 準備差 σια から再生信号の誤り率を推定することができ る。すなわち、平均値/標準偏差演算器24から得られ た標準偏差、平均値は、誤り率と相関のある再生信号品 質を示す指揮として用いられる。なお、上述したよう に、平均値がゼロに近い値を取ると予想されるため、P aveょ。をゼロと見なして誤り率を求めるようにしても IV.

【0166】以上、図7に示す構成を有する光ディスク 装置100について説明したが、光ディスク装置は、図 10に示すようにPLL回路におけるクロック再生のた めに適切な等化特性を有する波形等化器B28をさんに 備えるような構成を有していても良い。この場合にも、 図7に示した光ディスク装置100と同様に標準偏差、 平均値を求めることができ、これにより再生信号の品質 を評価することができる。また、このようにクロック再 生に適した波形整形を行なう波形等化器と、PRML存 号方式に適した波形整形を行なう波形等化器とを別個に 設けることで、好ましい再生クロック信号を生成できる とともに、PRML方式での復号の正確性を向上させる ことが可能である。なお、このような2以上の波形等化 器を用いる光ディスク装置は、本願出願人と同一の出願 人によって出願された米国特許出願番号第09/99 6,843号に記載されている。本明細書においてこの 米国特許出願番号第09/996,843号を提用す ъ.

[0167]また、図11に示すように、A/D変換器 13の出力(デジタル信号)から再生クロックを生成す るようにしてもよい。この場合にも、図7によった光ディスク装置100と同様に振準備差、平均値を求めるこ とができ、これにより再生信号の品質を評価することが できる。

【0168】また、上述のように差分メトリック解析器 16から出力されるPa-Pbの分布の標準偏差σ、平 物値P a v e を指揮として用いて再生信号の品質を評価することができるが、この指揮(標準研差でおよび平均を目 p a v e l ks 透小で再生作号品質を必要する制御を行なうことも可能である。例えば、図12に示すように、周波教特性制例手段29を用いるとかるように送売等に移110の放散特性を変化することで再生信号品質を改善することができる。また、情報を記録することが完全のように、また、情報を記録することができる。また、情報を記録することが対策を15から出力される平均能がとなった。とが変を、また、情報を記録することがある出から出力される平均能がとなった。と述べても、また、情報を記録することの対策を15から出力される平均能がしたなるように、記録パワーや記録補償量を制御することによって記録パラメータの飛渡化を行うことができる。

【0169】(実施形態4)次に、図13を参照しなが ち本発明の実施形態4にかかる光ディスク装置を説明す る。

【0170】 本実施形態では、差分メトリック解析弱160は、上述の式(14)によって規定わるPRM L 観光機関化 SA (M = o / 2・4)。計》を出力するように構成されている。なお、PRM L 観光機構 M L SA は、最も確からしい状態運停列と P 全番目に確からしい状態運停列を 2番目に確からしい状態運停列と 0 ユータリッド距離で除算することによって求められる、PRM L 観光機構 M L SA は、PRM L を用いた場合の再生信号品質を好適に評価することができる指揮である。

【9171】整分メトリック解析器160から出力される観光性機MLSAは、別波数特性制御手段290に決 結される、別波数特性制御手段290は、ごの議士階級 MLSAが最小になるように、波形等化制の特性(例え ば、ブースト量やガースト中心周波数)を長速化かるが 例えば、ブースト量を微少変変化させ、変化制能のボイントにおけるPRML競送情報MLSAを比較して、よ 別外LSAがからくなるほうのブースト量を選択する、 このような動作を繰り返すことにより波形等化器の特性 が最速化され、PRML製造機額MLSAを長小値に収 東させることができる。

【0172】また、図14に示すように、差分メトリック解析器160によって生成された下RML版差指線形 LSAを、フォーカスオフセット接重条段25に気料するようにしてもよい。信号再生時、光ヘッド50が出前すると一ムスポットが常に光ポッスク8の情報記載する。このフォーカスサーが制御は、サーボアンア91によって検出されてフォーカス動造信号が、引導器92よかに光ペット50のフォーカスアクチュエータ(不図示)をフィードバック制作を立ることで集行される。ここで、フォーカスオフセット探全手段291が、所定目標系のととしてPRML版

差指係州」SAを長小とするような目標像XOを引算額 92に対して出力するようにすれば、PRM LIN基が MLSAが例となるようなくすなわち、銀り率が長小 となるような)フォーカスサーボ制御を行うことができ 。なお、このような目標値XOの探査を行なうために は、例えば、上配目標値XOを微少変化を行なうために RML根基指線MLSAの変化を検出および比較すれば よい。

【〇173】なお、本実施の形態では、PRML訓養指 線MLSAを用いてフォーカス目解療を最適化しているが、本売明治化ファーカス目解療を最適化しているが、本売明治化のナーガ目解傷の政遺化にも応用する ことができる。上記のPRML観差指揮MLSAを用 かて、例えば、トラッキングサーボ、ディスタチルト制 働、レンス球面収差補正制等等を行うことが可能であ

6. 【0174】さらに、図15に示すように、信号再生用 光へッド50および信号記録用光へッド51の2種類の 光へッド6値える光ディスク装置において、差分メトリ ック解析着160から出力されるPRML 財産指揮ML SAを用いて、記録パワーを削削するようにしてもより、光ディスクに記録するぐ信号は、記憶を含生成手 段103によって変調器102を介して信号記録用光へ ッド51に供給される、変調器102を介して信号記録用光へ ッド51に供給される、変調器102を介して信号記録用光へ ッド51に供給される、変調器102を介して信号記録用光へ ッド51に供給されたり、変調器102を記録が160によ のて生成されたPRML 財産指揮MLSAを配録パワー般 毎9年段292に供給するととで、記録パワー般明年段 292は、PRML 財産指揮MLSAが扱んになるよう にト間に降びアーPを決定するとかがまると

[0175] なお、図15に示す光ディスク装置は、配 数動作および再生動作のそれぞれを別々のヘッドを用い で行っているが、1つのヘッドの機能を配験と再生との 間で切り零え、上記の各動作を実行するようにしてもよ い、また、上記には、記録パワーを制御する例を示した が、PRN L頻差指側がLS Aに基づいて記録が入るの 4等位的を削算するような構成としてもよい。 [0176]

【発明の効果】本発明の再生信号品質評価方法によれば、 nia の状態運移列のうちから最も確からしい状態運移列を対している。 現代自分式において、興料に J での状態から時刻k での状態に至るまでの所定期間における状態運移の確からしざ (例えば、所定期間におけるよークリッド距離の異種値)を P a と し、 2番目に確からしい状度整序列所の時刻k ー J での状態から典刻k の状態に至るまでの所定期間における状態遷移の確からしさ

(例えば、所定期間におけるユークリッド距離の無積 値)をPbとするとき、時刻メーjから時刻はまでの復 号結果の信頼性を|PaーPb|によって判断する。ま た、この複数回測定された|PaーPb|のばらつきを 求めることによって、最大伐号の2億化結果の終り率と 相関のある信号品質を示す指標が得られる。 【図面の簡単な説明】

【図1】従来の光ディスクドライブの構成図 【図2】ジッタとビット飼り率の関係を示す図

【図3】本発明の実施例で用いる最小極性反転間隔が2

であることとPR (1, 2, 2, 1)等化の制約から定 まる状態遷移図

【図4】本発明の実施例で用いる最小極性反転間隔が2 であることとPR(1,2,2,1)等化の削約から定 まるトレリス図

【図5】本発明の実施例で用いるトレリス図において状態50xと状態50x-6間でとりうる2つの状態運移列を示す図

【図6】復号結果の信頼性を示すPa-Pbの分布の模式図 【図7】本発明の実施形態3にかかる再生信号品質評価 装置の構成図

【図8】本発明の実施形態3にかかる再生信号品質評価 装置のビタビ回路、差分メトリック解析器の詳細構成図 【図9】本発明の実施形態3にかかる再生信号品質評価

装置のパスメモリの構成図 【図10】本発明の実施形態3にかかる別の再生信号品

質評価装置の構成図 【図11】本発明の実施形質3にかかるさらに別の再生

【図 I I I 本売明の実施が振うにかかるさらに別の再生 信号品質評価装置の構成図

【図12】本発明の実施形態3にかかるさらに別の再生 信号品質評価装置の構成図

【図13】本発明の実施形態4にかかる光ディスク装置 の構成図

【図14】本発明の実施形態4にかかる別の光ディスク 装置の構成図

【図15】本発明の実施形態4にかかるさらに別のの光 ディスク装置の構成図

【図16】指標MLSAと誤り率BER(Bit Error Rate) との関係を示すグラフ

【図17】本発明の実施例で用いる最小極性反転間隔が 2であることとPR(O), C1, C0)等化の削約から定ま る状態遷移図

【図18】本発明の実施例で用いる最小極性反転間隔が 2であることとPR(CO, C1, CO)等化の制約から定ま るトレリス図

【図19】本発明の実施例で用いる最小極性反転間隔が 2であることとPR(00, C1, C2, C1, C0)等化の制約 から定まる状態遷移図

【図20】本発明の実施例で用いる最小極性反転間隔が 2であることとPR(CO, C1, C2, C1, C0)等化の制約 から定まるトレリス図

【符号の説明】

1、8 光ディスク
 2 光学ヘッド

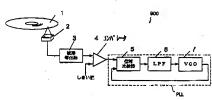
3、11 波形等化器

(24) 103-141823 (P2003-141823A)

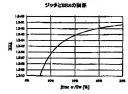
- 4 コンパレータ
- 5、位相比較器
- 6 LPF
- 7 VCO
- 9 プリアンプ
- 10, 28 AGC
- 12 PLL回路
- 13 A/D寮機器
- 14 デジタルフィルタ
- 15 ビタビ回路
- 16 差分メトリック解析器
- 17 ブランチメトリック演算回路

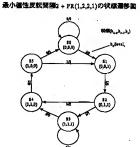
- 18 加算/比較/選択回路
- 19 レジスタ
- 20 パスメモリ
- 21 遅延回路
 - 22 差分メトリック演算器
- 23 状態遷移検出器
- 24 セレクタA
- 25 セレクタB 26、27 平均值/標準偏差演算器
- 28 波形等化器B
- 29 周波数特性制御手段

[EXI1]



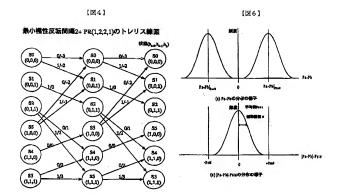
[2]2]



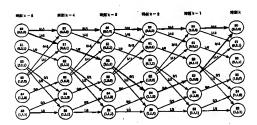


[2]3]

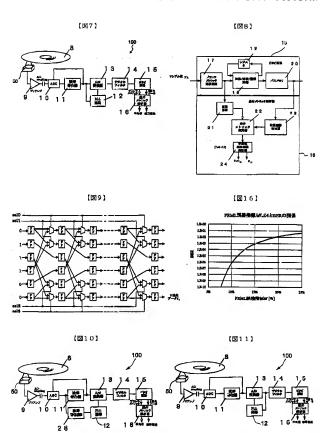
(25)103-141823 (P2003-141823A)



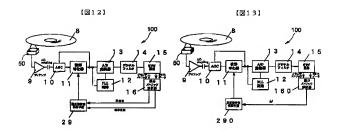
[図5]

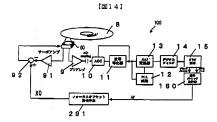


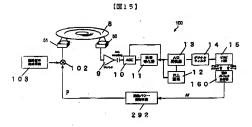
(26))03-141823 (P2003-141823A)



(27)103-141823 (P2003-141823A)



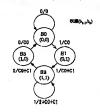




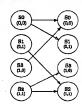
(28))03-141823 (P2003-141823A)

[2]17]

【図18】

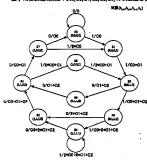


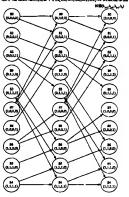
【図19】



【図20】

最小補性反転間隔2+PR(C0,C1,C2,C1,C0)の状態遷移阀 泉小植性反極間隔2+PR(C0,C1,C2,C1,C0)の状態遷移図





2008年 4月30日 17時25分 S. YAMAMOTO OSAKA NO. 6442 F. 34 34

(29)103-141823 (P2003-141823A)

フロントページの続き

(51)Int.Cl.7 微测记号 FI (参考) G11B 20/10 321 G11B 20/10 321A 341 341B

(72)発明者 古宮 成 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内 (72)発明者 石橋 広道 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内 Fターム(参考) 50044 BC01 BC02 CC04 FG01 FG02 FG05 GK18 GL32